CHURCH HYMNAL
聖公會讚美詩

With the Editor's compliments

July 1891.

聖公會

讃美歌

明治廿四年七月刊行

聖公會讚美歌

緒言

此歌集ハ日本聖公會諸愛兄姉の家禱と公拜の用に供せんが爲に編集したるものなり然れども固より完全の者となすに非ず編中尚疵瑕誤謬の點少なからず冀くは諸子其之を諒し聊か感謝讚美の精神を裨補するの具とせらるれば編者の幸なり

此編集に就て厚く鳴謝すべきは先第一チング氏なり蓋し氏が嘗て輯集出版せられしもの即ち我從來用ひし讚美歌は本集の基本にして現に其歌の過半は或は削正し或は本の儘茲に登載し其蒙りし所の餘澤實に小少なら ざればなり又曩に新撰讚美歌編集委員諸氏がチング氏出版の者より移し來りし歌に幾分の改正をなし且該歌集の中より左に記せる者を拔採し本集ヱ登載する事を許諾せられしに由り聊か詞調を改め或は直に編入し爲に大に本集の光彩を添へし事是なり次に本集の編纂に盡力し最も其勞を取られしは林長彥村山和介中村貞顯及び他の和學に熟されし諸先生にして其與へられし助力に由り遂に今日の成功を奏するに至りしは是亦無量の價値と謂つべし殊にアーチデヤコノ、ワレン氏の許多の要務を帶び毫も餘間わらざるにも拘はらず綿密周

緒言

到に本集の細閲をなし校訂改正終始編纂を賛助せられしは更に謝辭を述べざるべからず而して此歌曲に屬する音調を付するに當り勞苦を惜まず廣く樂譜を參照し終に能く和國に適當なる者を製定せられしパウナル夫人にも亦深く鳴謝する所なり

本集は我公會の時節諸式に從ひて其順序を定めたれども之を用ふる諸愛兄姉の意に任せて其場合に適當なるものを撰み用ふるは固より妨げなしとす今其例を擧れば傳道の歌は現異邦節の中にあり創造の歌は大齋前節の中にあり獻身の歌は堅信禮の中にある等の如し

本集に關する總ての事は下名に向て要求あらんことを望む

神戸市四の宮松の舍

ヒウヽゼヽフナス

耶蘇降生一千八百九十一年

明治廿四年六月

新撰讃美歌集より編入したる歌の番號

四、九、十一、十八、廿、廿一、廿二、廿八、三十六、四十九、五十七、六十一、六十三、八十九、九十二、九十三、九十九、百廿二、百五十五、百六十、百六十四、百七十一、百七十八、百七十九、百八十三、百八十六、百九十八、百九十九、

目次

大尾

いろは見出し

い　の　部

は の 部

ほ の 部

と の 部

ち の 部

を の 部

わ の 部

か の 部

よの部

たの部

つの部

ねの部

なの部

うの部

くの部

やの部

けの部

ふの部

この部

あの部

ゆ の 部

め の 部

み の 部

し　の　部

ゑ　の　部

ひ の 部

すの部

主の祷

1　第一　Langdale.　87.

汝れ我等の父なり

一　あめにしましますちゝなるみかみ
いときよきみなをよにあらはせよ

二　よひとをゝさむるときをきたらせ
いづくもみむねをおこなはしめよ

三　みもたましひをもやしなふかてを
ひごとにさづけてたすけつよめよ

四　われらをそこなふあたをゆるせば
われらのつみをもすべてゆるせよ

五　サタナのさそひにあはせたまはで
かよわきわれらをつみよりすくへ

六　またきちからにてよゝをゝさむる
さかえのかみなるちゝをぞあふぐ

朝(あさ)

2 第二 Hopkins. 6 of 7.

われ常に主を我前におけり

一 かみのさかえを　あらはすために
ひゞのつとめを　いそしみつゝも
ゆるがぬむねを　あはれみたまへ

二 あまつさとりに　さだめしわざを
みまへにつくし　よろこぶわれに
つねにみむねを　しめさせたまへ

三 わがむなろこを　みとはすかみの
かたへはなれぞ　たえぞつかへて
おこなふわざを　さゝげしめませ

四 めさましいのり　かろきくびきを
おふをいとはで　あまつひかりに
てれるみくにへ　すゝませたまへ

3 第三 Dix. 6 of 7.

主の仁愛(いつくしみ)朝ごとに新なり

一 しのゝめごとに
こゝろにうくる
みいつくしみを
やみぢをこえて
きみがひかりは
あらたにしめす

二 しのゝめごとに
つみをきよむる
みくにのさちを
あめよりくだり
めぐみのつゆは
あらたにそゝぐ

三 しのゝめごとに
きよしとみとめ
いともたふとき
なすべきわざを
かみにさゝげは
たからとぞなる

四 わがなりはひを
おのれにかちて
これみこゝろに
いそしみつゝも
ひとをおもはゞ
かなへるまつり

五 しのゝめごとに
まさみちあゆみ
うくるそなへを
いのれるごとく
まことのやすみ
なさしめたまへ

4 第四 Intercession. 8 of 75.

なんぢ朝ごとに我らの臂(かひな)となり

一 ひがしのそらは わけわたり
いてひのよるも すぎゆけば
まだきにこゑを はげまして
きみゝちびけと よばふなり

二 きみなる耶蘇よ けさもまた
わがなりはひを とるために
いでゆくかたの ゑるべして
もとむるものを たまへかし

三 わがつみとがを のぞきさり
ゆきよりしろく なしたまへ
いまよりのちは みこゝろを
こゝろとなして つとむべし

四 めぐみによりて むすぶみ(果)の
さかえをきみの ものとなし
まごゝろをもて ちゝとこと
みたまのみな(名)を たゝへまし

夕（ゆふ）

5 第五　Hursley.　L.M.

主は我光わが救ひなり

一 よるをもてらせる　わがそくひぬしよ
よ（世）のくもはらひて　とくわらはれませ

二 こよひいぬるとき　みもとにいたりて
みくにふやすむを　おもはしめたまへ

三 わけくれはなれず　ともなひまさぞば
よ（世）をふるはかたく　志ぬるもおそろし

四 みぬしをかろしめ　まよへるこ（子）あらば
わらたむるこゝろ　いまさづけたまへ

五 みくら（庫）をひらきて　まづしきをとまし
をさなでのごとく　やむひとねさせよ

六 わしたをもいはひ　つひにみそまひの
ゆたけきめぐみに　みちびかせたまへ

6 第六 Tallis's Canon. L.M.

かれその羽根(はね)をもて汝を庇(おほ)ひ給はん

一 ひかりをたまひし かみにさかえあれ
つばさのみかげに おはひたまへかし

二 けふのつみとがを みこ(子)によりゆるし
こゝろのせめなく やすくいねさせよ

三 よるもよみぢをも おそれぞよをすぎ
みくにをのぞみて いぬるをさづけよ

四 まぶたをとぢつゝ みまもりにもたれ
めさめてつかふる ちからをえさせよ

五 ねむらぞふしなば きみをおもはしめ
やみよのつかさの せめをさらしめよ

六 ひともみつかひも めぐみのもとなる
ちゝみこみたまの かみをばはむべし

日の落るときその邑こぞりて門に集れり

一 あるたそがれに
なやむひと〲
めぐみこひしに
やまひにいたく
耶蘇をかこみて
みないやされぬ

二 いまたそがれに
あまたのせめに
そのみもとにぞ
きみはみゑねど
わづらふわれら
ちかづきいのる

三 かなしみおはく
きみのめぐみを
ゑりつゝまよひ
なげくものあり
ゑらぬものあり
すつるものあり

四 つみをはなれて
ゑしものあらず
はげむものこそ
たれるやすきを
きみにつかへて
みのつみをしれ

五 いまたそがれに
みこゑをきかせ
われらをすべて
いつもかはらぬ
みてをばくだし
いやしたまへよ

8　第　八　Dretzel.　87877.

主よわれを担然(たいらか)に居らしむるも
のは汝なり

一　ひねもすめぐみを　たまひしかみよ
よのしづけきとき　つかれいぬれば
サタナをふせぎ　みまもりたまへ

二　わたにかこまれて　たびぢになやむ
われらをまもりて　たのしきくにの
やすきいこひを　ねさしめたまへ

9　第　九　Eventide　4 of 10.

日昃(かたむ)きて暮(くれ)に及びぬ我らと偕に
止まれ

一　ゆふべとなりひ[ロ]くれぬ

ともにやどらせたまへ
よるべなきみ（身）のたよる
きみともにやどりてよ

二
いのちのくれもちかく
よ（世）のいろ（色）が（香）きはうつる
とこしへにかはらざる
きみともにやどりてよ

三
くもかてみわたおろひ
サタナのさそひおほし
ときのまもさりまさで
きみともにやどりてよ

四
じふじかのかゞやきに
みくにへいたるみちを
とづるめ（目）にしめすため
きみともにやどりてよ

10 第十 Nutfield. 858885.

主は汝を守りてもろ〳〵の禍害
をまぬかれしめたまはん

一 ひねもすはたらき　くらきよを
いこひとさだめし　ちゝがみよ
いまやすきねむり　よきゆめをあたへ
みつかひつどはせ　まもりませ

二 かせぎつねむりつ　ゑぬときも
みぬしにまもられ　いこはしめ
よのすゑのみこゑ　われをさますとき
みすまひのさかゐ　ゐさしめよ

11 第十一 Vesper Hymn. 8 of 87.

災害(わざはひ)汝にいたらじ苦難(なやみ)汝の幕屋(まくや)
に近づかじ

一 みすくひぬし耶蘇　わがたましひの

ふしいてふまへに　めぐみをそゝぎ
つみとゝもしさを　いひわらはせる
われらをわはれみ　たすけをたまへ

二
よ(夜)はいかにくらく　さびしかるとも
ちゝのみかはをば　かくしうべゑや
やすまぞつかれぞ　みたみのいへを
まもれるきみこそ　たふとかりけれ

三
ゐやみとはろびは　めぐりをかこみ
や(矢)はみぎひだりに　とびきたるとも
みつかひつどひて　われらをまもり
きみもともなへば　おそれはわらじ

四
よ(夜)のまにわがみに　ゑ(死)のおそひきて
ふしどはたちまち　はかとなるとも
わまつわけぼのに　とくさまされて
つきせぬさかゐを　ゐさしめたまへ

12　第十二　Sebaste.　PM.

すべての人を照らす眞(まこと)の光り

（此聖歌は第四紀のころすでに古歌と稱へられたるものなり）

一　あまつちゝよりいづる
よろこびのひかりなる
耶蘇きみをほめまつる

二　いまひのいるをむかへ
ゆふばゑのひかりをゑ
ちゝとことみたまをたゝふ

三　いのちをあたへたまふ
かみのみこよ
よひとみなみさかゑを
きよきこゑもてうたふべし

（此外第百四十四のうたを用ふるも妨げなし）

主日（しゅじつ）

13　第十三　Wakayama.　7s.

我らは汝の光によりて光をみん

一　けふはひかりを　たまはるひなり
　　くもきりはらひ　てらさせたまへ

二　けふはいこひを　たまはるひなり
　　つかれしむねを　いこはしたまへ

三　けふはやすきを　たまはるひなり
　　よものなみかぜ　しづめたまへよ

四　けふはいのりを　さゝぐるひなり
　　もとむるものに　ちかづきたまへ

五　けふ耶蘇よみに　かちたるひなり
　　つきぬいのちを　うけさせたまへ

14　第十四　Garrett.　7s.

汝ち聖所に向ひ手をあげて主をはめまつれ

一　かみのさだむる　やすみはけふぞ
みくらのまへに　はめようたへよ

二　けふよみがへり　サタナにかちし
みこ(子)のくしわざ　わがめいはへよ

三　ちゝよりいづる　ひかりのごとく
われらをてらす　きみをたゝへよ

四　みたまのつゆを　あめよりそゝぎ
たみをうるはす　きみをたゝへよ

五　たかきみくにの　つかひとゝもに
あめのしたみな　はめようたへよ

15 第十五 Gotha. 87.

是れ主の設けたまへる日なり

一 みひかりかゞやく　いこひのけふは
なやみをいやして　よろこびみてり

二 けふよ（世）のあらしを　ふせぎのがれて
こゝろにやすきを　うるみなとなり

三 かわきにかわける　すなぢをかよふ
よひとをうるはす　つきぬいづみぞ

四 けふはエホバなる　われらのかみの
ちかひしみくにを　のぞむみやまぞ

五 けふこそみたみの　たかきいやしき
ちゝみこみたまを　たゝふるひなれ

六 このめぐみをうけ　つひにみくにの
みちたるやすきを　うるをぞねがふ

第十六　Goshen.　

然れば安息は神の民に遺れり

一
よのはじまりに　わがかみは
むゆかのうちに　あめつちを
つくりをさめて　なぬかめを
いはひめぐみて　やすみけり

二
いにしへのひと　あめつちの
みつくりぬしの　みちかひを
うけししるしに　なぬかめを
いはひびとなし　やすみけり

三
よひとのすくひ　なしとげて
サタナにかちし　耶蘇きみの
よみがへりびを　いままもり
なほよろこびて　やすむべし

四
つねのしわざを　けふやめて
たゞへといのり　わがかみに
さゝぐるために　うちつどひ

五 のちのやすみを　もとむべし
あまつみくにの　たのしみを
みたまによりて　ゑめしつゝ
みちたるやすみ　みまへにて
ゐさしめたまへ　わがみかみ

17 第十七　Vienna.　7s.

願くは汝の光と眞理をはなち我を導き給へ

一 かみよみまへに　つどふわれらに
みたまをくだし　みちびきたまへ

二 まごゝろをもて　うたといのりを
さゝぐるかたに　みちびきたまへ

三 みふみのむねを　ふかくこゝろに
あぢはふかたに　みちびきたまへ

四 つみをばくいて　耶蘇によらしめ
すくひのみちに　みちびきたまへ

主日　十八

我らは此日に喜び樂まん

一 きよきあしたに　とくおきいでゝ
かみのみまへに　ひれふしつかへ
こゝろあはせて　みたまをあふげ

二 むゆかのわざは　みのためなれど
けふのやすみは　いのちのためぞ
いときよらかに　このひ(日)をまもれ

三 きみのあはれみ　うみよりふかし
めぐみのなみに　つみをばあらひ
わがみをきよめ　にへとなすべし

四 このよをゆくに　まさみちあゆめ
たびぢをはりて　ねむりにつかば
くちぬさかえの　いこひをうるぞ

19 第十九 Banner (Barnby). PM.

汝の家に住む者は福ひなり

一 よのなみかぜ　さわぐなかも
まもられゆく　みちのとも
このみとのに　とくつどひて
かみのみなを　あがむべし

（をりかへし）めぐみある　かみのみな
このみとのに　たゝふべし

二 このみとのに　うちつどひて
いのるひこそ　よのなかの
うきくもきえ　いとたのしき
みくにゝすむ　こゝちすれ
（をりかへし）

三 このみとのに　すむわれらは
いとやすけく　うみわたり
やがて耶蘇の　むかへたまふ
あまつくにゝ　いたるべし
（をりかへし）

20 第二十　Sheaves.　P.M.

人いざ主の家に行かんといへる
とき我喜べり

一 ちゝとみこの　いつくしみの
ゆたかにみつ　このみとの
うけよめぐみ　そのあはれみ
かなしみうせ　うきもきえん
　このみとのに　とくきたれ
たえぞたまふ　そのめぐみ

二 くもゐのみや　しづかふせや
つひにもれぬ　うきためし
ひとはくさの　はなにひとし
あさのはえは　よべにちらん
　とこしへの　さちぞある
　このみとのに　とくきたれ

三 すくひのさち　よにあまねし
くいてきたれ　もろびとよ

きみのみかは　むけたまへば
なみだかわき　つみもきえん
　よろこびは　つねにみち
　うきはうする　このみとの

21　第二十一　Belmont.　C.M.

主(しゆ)の法(のり)は全(まつた)くして靈魂(たましひ)を生(いき)かへらしむ

一　かみのみことばゝ　いともくすし
みゝをかたぶけて　つどひきけよ

二　みふみにいのちの　いづみあふる
かわけるよのひと　くみていきよ

三　みふみのひかりは　やみをてらし
はろびのみちより　すくひいだす

四　やみぢをのがれて　ひかりにつき
いのちのいづみに　きたりいこへ

22　第二十二　S. Lawrence.　LM.

主よ恒にそのパンを我らに與へよ

一 あはれみのかみよ　いまたまはりたる
いのちのかてにて　われらをやしなへ

二 みぬしのちしほに　つみをあらひさり
よにかつちからを　ゆたかにあたへよ

三 めぐみのみくら(寶座)に　うけたるやすきを
よもひもたもちて　たゝへしめたまへ

23　第二十三　Bread of Heaven.　6 of 7.

主は平安をもて其民を幸ひ給はん

一 ひつじをかへる　をさなる耶蘇を
よみよりかへし　いかしゝかみよ
やすきこゝろを　われらにたまへ

二 ひゞみをまもり　けがれしこゝろ
あらたにつくり　みむねにかなふ

きよきしわざを　なしとげしめよ

三　みすくひぬしの　ちしはによりて
よゝのちかひを　かためしかみに
かぎりしられぬ　さかえあれかし

24　第二十四　Rousseau.　6 of 87.

我が平安を汝等に與ふ

一　きみのみめぐみを　われらにそゝぎ
よろこびにみちて　みまへをさらせ
みいつくしみをば　あらはさしめよ

二　ちゝなるみかみの　ともにいますを
こゝろにみとめて　おこなふわざに
いよゝあきらけく　よにしらしめよ

三　うけしみことばゝ　こゝろのはたに
よきみをむすびて　いよ／＼しげく
あめなるみくらに　たくはへしめよ

降臨節

25 第二十五 Winchester Old. CM.

主來り給ふ地をさばかんとて來り玉ふ

一 きみきたりませり ひとゞみな
へりくだるこゝろ みくらとなせ

二 きみのみみをさめを いはふうたを
うみやまのすゑも うたひとよめ

三 つみとかなしみの いばらをぬき
のろはるゝものを すくひたまふ

四 たゞしききみいづと いつくしみの
くしきをあらはし をさめたまふ

26 第廿六 S. Sylvester. DCM.

來るへき者

一
わさひはのぼりて　よをてらせり
くらきにすむひと　きたりあふげ
さときにとむもの　よにいでたり
おろかなるひとは　きたりまなべ

二
ちからのあるもの　よにのぞめり
たよわきひと〴〵　きたりたのめ
いこはしむるもの　よにくだれり
くるしめるひとは　きたりいこへ

三
なぐさむるものは　よにきたれり
うれひのあるひと　きたりつげよ
いかしむるものは　よにいませり
つみにしせるひと　きたりいきよ

四
よのすくひぬしは　よにうまれり
たかきもひくきも　きたりすがれ
あめつちのあるじ　あらはるゝぞ
よろづのものみな　いさみうたへ

27 第廿七・ Borlan. 87.

主は我に膏を灌ぎて貧き者に福音を宣傳ふることを任ぬ

一 よろこびよろこべ　かみのちかひし
よのみすくひぬし　やゝあらはれぬ

二 わかゞねのとびら　みまへにひらけ
わしがせもくだけ　とりこもいでぬ

三 こゝろのふかでに　あぶらをそゝぎ
ちのながれをとめ　いやしたまふぞ

四 ひとのいやしむる　まづしきものに
めぐみのたからを　ゆたけくたまふ

五 やすきのきみなる　耶蘇あらはれて
よろこばしきとし　よにのべたまふ

28 第廿八 Bevan. 666888.

主の禧しき年を宣べ播めん

一 よろこばしき　こゑひゞかせ
つのぶゑもて　ふれしめせよ
よろづのくにびと　よろこびのとしの
きたれるをしれと

二 ちのはてより　ちのはてまで、
わがなはれし　つみびとらよ
よろこびいさみて　ながふるさとへと
いそぎたちかへれ

三 いとたふとき　まつりのをさ
耶蘇はまたき　わがなひせり
つかれしたましひ　なげきをわすれて
やすみにいるべし

四 よろこばしき　としきたれり
わがなはれし　※つみびとらよ
よろこびいさみて　ながふるさとへと
いそぎたちかへれ

29 第廿九　Merton.　87.

我必らず速に至らん

一 いざひかりのこよ　きみちかづけば
よのゆめさませと　よべるこゑあり

二 よをめでつるもの　めをさましみよ
きみあさひのごと　あらはれませり

三 いまつみのゆるし　つどひねがひて
くらきわざをすて　みをもそなへよ

四 よのひとをのゝき　さばきぬしをみ
ひかりにつくもの　よろこびまみゆ

五 いくよもつきせぬ　はまれとちから
ちゝみこみたまに　いつもあれかし

視よ彼は雲に乗りて來る

一 みよわがなひねし　さかねにみちて
きよきつかひをば　みともにひきゐ
ハレルヤ　きたりたまふを

二 いまそのみいづの　かゞやくきみを
あざけりきぞつけ　ころしゝものは
をのゝき　なげきかなしむ

三 すくひをねしもの　さかゆるきみの
あがなふしるしの　きぞのみあとを
よろこび　かしこみながむ

四 あまねくよひとの　うやまひをうけ
よろづのくにをば　きみのくにとし
はやくぞ　あらはれたまへ

31 第三十一 University College. 7s.

主は統べ御め給ふ全地は樂むべし

一 うみなりとよみ　あめつちうたへ
耶蘇すみやかに　あらはれませば

二 みぬしたゞしく　さばきたまふを
よひとよろこび　むかへまつれよ

三 あれのもしまも　こゑをそろへて
みゑろしぬしを　わがめたゝへよ

32 第三十二 Luther. 8787887.

其來る日には誰か堪へえんや

一 よのすゑいたりて　よのさばきぬし
わまつくもにのり　かゞやきゝたり
みつかひよばゝり　よゝのゑにしひと
みまへにつどふ

二 キリストにたより　ねむれるみたみ
はやくよみがへり　くもにあげられ
おそれをいだかず　よろこびにみちて
みまへにつどふ

三 かみにそむくひと　よみよりめされ
なみだをながせど　めぐみをうけむ
みいかりをおそれ　はがみしなげきて
みまへにつどふ

四 みぬしよあはれみ　われらをきよめ
みふみにしたがふ　こゝろをあたへ
よのすゑいたらば　よろこびみまへに
つどはせたまへ

降誕日（こうたん）

33　第三十三　Stuttgart.　S7.

萬民に關りたる大なる喜びの音づれ

一　ひつじをかふもの　のにあるよは（夜半）に
かゞやきあらはれ　みつかひくだる

二　おそれなくきけよ　よひとのための
よろこびのみつげ　いまこそつぐれ

三　ダビデのむらにて　ダビデのすゑの
みすくひぬしなる　キリストうまれぬ

四　あまつみどりでは　まぶねにふして
ぬのにてまとはる　こはみしるしぞ

五　みつかひかくつげ　をはりしのちに
みとも（天軍）らあらはれ　かみをほむるに

六　かみ（神）にはみさかえ　ち（地）にはおだやか
ひとにはみめぐみ　はてなくあれと

第三十四　Adeste Fideles.　5775577 5.

いざベツレムに行くべし

一　ともよみな　かちどきわげて
うまれきませる　みつかひの
おほきみを　ダビデのむらに
いたりてをがめ　キリストぞや

二　ゑづのめの　はらにやどるを
いとひたまはぬ　かみのみこ
ひかりより　いでしひかりを
いたりてをがめ　キリストぞや

三　いとたかき　あめにはかみに
かゞやきわれと　みつかひも
いさみつゝ　うたひまつれば
いたりてをがめ　キリストぞや

四　うちつどひ　いはひうたへよ
けふよにうまれ　ひとのみ(身)を
うけまゑし　ちゝのことばを
いたりてをがめ　キリストぞや

35　第三十五　Mendelssohn.　10 of 7.

天上(いとたか)きところには榮光神にあれ

一
かみにはさかえ　ちにはおだやか
よびとゝかみと　やはらぎたりと
みつかひたちの　うたへるうたを
ひとゞきゝて　ともによろこび
けふあれませる　きみをはむべし

二
さだめたまひし　そのときにしも
たふときかみの　みくらをはなれ
われらとゝもに　ましますために
しづのをとめの　はらにやどりて
けふあれませる　きみをはむべし

三
くもきりはらひ　ひのゝぼるごと
みひかりをもて　くらきをてらし
つちよりいづる　ひとをいかしめ
つきぬいのちを　さづくるために
けふあれませる　きみをはむべし

第三十六　Morning. 6 of 7.

獨の嬰兒我儕の爲に生れたり

一　ダビデのすゑの　ふたりはともに
そのふるさとの　ユダヤのむらに
ときのみてるを　よろこびまてり

二　ときこそみてれ　ひとりのみこを
よにたまはりて　みまつりごとを
かたにぞおはせ　よきなをあたふ

三　そのなはよにも　たぐひはあらぞ
ちからあるかみ　とこしへのちゝ
やすきのきみと　たれかはほめぬ

四　つみよりすくふ　耶蘇となづけて
われらとゝもに　ましますかみぞ
いよゝかしこみ　たゝへをがめよ

五　みくらにありて　みくにをゝさめ
なはきさばきを　よもにおよぼし
よろづよまでも　をさとなるべし

37　第三十七　Irby.　6 of 7.

耶蘇智慧も齢も彌増り神と人とに益愛せられたり

一　ダビデのむらの　うまやのうちに
いませるみこと　はふをみるべし
はふれマリヤぞ　みこは耶蘇なり

二　よろづのひとの　きみにしませど
うまやのうちに　うまれたまひて
いやしきものゝ　ともとはなれり

三　をさなきときに　やしなひうけし
みおやにむくい　うやまひつかへ
われらのふりと　なりたまひしぞ

四　さときとよはひ　ひつきにまして
なきつわらひつ　そだちたまへば
よくよのさまを　しりておはれむ

五　いま耶蘇きみは　うまやにまさで
ちゝなるかみの　みぎにいまして
よろづのものゝ　みしろしぬしぞ

六　われらもつひに　つみをゆるされ
みちびかれつゝ　みくにゝいたり

よろこびきみに　まみえまつらむ

新年

38 第三十八　Culbach.　7s.

主は汝のいづると入るとを守り給はん

一 ひとゝせたえず　めぐみまもりし
かみのみまへに　たゝへていのる

二 われのをゆかば　まさみちしめし
なやみをふせぐ　しころとなりませ

三 わけぬるとしに　よみぢをふまば
しもとゝつゐに　みをなぐさめよ

四 きよきをまもり　まことをつくし
おまつみちゝに　つかへしめてよ

五 たふるこゝろを　つねにそなへて
みくにのかむり　とりえさしめよ

六 つひにこがねの　ことをひきつゝ
かみのいさをゝ　うたはせたまへ

現異邦節

39　第三十九　Dix.　6 of 7.

彼等この星を見て甚だ喜べり

一　はるゞひとの　はしをしるべと
よろこび耶蘇に　いたりしでとく
われらもきみに　みちびきたまへ

二　いとよろこびて　おまつぬしなる
きみをみとこに　をがみしでとく
われらもきみに　いたらせたまへ

三　みつのいやしろ　みそなへものに
さゝげしでとく　いまわれらにも
きよきたからを　さゝげしめてよ

四　せまきちまたを　ひゞおゆましめ
よをさるのちは　みちびくはしを

たよらぬくにへ　いたらせたまへ

五 あまつみくにを　てらすひかりは
ひつきにあらぞ　みすくひぬしぞ
そのハレルヤを　うたはせたまへ

40 第四十 Heathlands. 6 of 7.

神我が神は我らを福ひ給はん

一 かみよあはれみ　さきはひたまひ
みかほのひかり　われらにてらし
かくみすくひを　よもにしらせよ

二 かみよみたみの　くちをひらきて
いともたゞしく　をさむるきみを
たえせずたゝへ　ほめさせたまへ

三 なりいでものを　ゆたけくあたへ
まことのさちを　さづくるかみを
よろづのひとに　ほめさせたまへ

41 第四十一 Salzburg. 6 of 7.

遂に一ツの群一ツの牧者となるべし

一 ちゝのさだめし　みすくひぬしよ
よのひと〲の　つみとよわきを
あはれみたすけ　すくはせたまへ

二 ヤコブのいへの　みてらしぬしよ
おとろへちれる　たみをめぐみて
そのかゞやきに　かへらせたまへ

三 ことくにびとの　みてらしぬしよ
あやめもわかぬ　やみにまよへる
たみをてらして　みちびきたまへ

四 ヤコブのいへも　ことくにびとも
ともにひとつの　みたみとなして
あまつみくにへ　つどはせたまへ

42 第四十二 Pentecost. L.M.

われ汝の座位(くらゐ)をたてゝ代々に及ばしめん

一 ひのてらすくには 耶蘇のくにとなり
はてよりはてまで みぬしをさむべし

二 そのみなによりて たゑざるいのりは
そらだきのごとく たかくかをるべし

三 もろびとは耶蘇に はめうたをそなへ
をさなでもともに みなをいはふべし

四 とりてはゆるされ つかれたるしづら
まことのやすみも とみをもうくべし

五 よろづのものみな みぬしをばあがめ
みつかひのうたを よもにひゞかせよ

43　第四十三　Nogeyama.　6 of 7.

その政治(まつりごと)は海より海に至り河より地のはてに及ぶべし

一　きたのみやまや　かはたにをかも
とほく〻へだてし　きみのかちどき
ちかくぞきこゆ　よろこびうたへ

二　みなみのしまも　いそべのはらも
きみゑをさめを　ちかづかしむぞ
なみかぜしづめ　みちをそなへよ

三　ひがしのくによ　ながきやみよの
ねむりをさまし　きみのしのゑめ
いまれはるゑを　よろこびうたへ

四　にしのはまべよ　まちわびたりし
めぐみをわふぎ　ゑにしみぬしの
（生）いきをさむるを　よろこびうたへ

五　よもよりかみの　みやこをさして
つどふひとぐ〻　うきそらわすれ
すくひのうたを　よろこびうたへ

第四十四　Bishop Heber.　8 of 76.

渉りて我らを助けよ

一
きたのはてなる　こほりのやま
ひにこがさるゝ　まさでのはら
そのくにびとの　こゑぞひゞく
まよひのくさり　きてはなてと

二
かみはゆたけく　めぐみをたれ
めもこゝろをも　よろこばせど
かみのすがたに　かたどられし
ひとはむなしく　いしをゝがむ

三
わまつひかりに　てらさるれば
やみよのなかに　まよふひとの
さちといのちの　ともしびをば
いかでかくさむ　かみのこらよ

四
かみのすくひを　わまねくのべ
よをみさかゑの　うみとなして
みぬしわらはれ　きよきたみを
をさむるときを　きたらしめよ

45 第四十五 Sychar. 87.

凡べての人に福音を宣べ傳へよ

一 よろこびのみつげ　あまねくのべよ
すくひのみぬしの　みさだめなるぞ

二 みことをよにたまふ　みいつくしみの
よろこびのみつげ　あまねくのべよ

三 すべてよのひとを　あがないましし
よろこびのみつげ　あまねくのべよ

四 とりなしあつかふ　きみのましします
よろこびのみつげ　あまねくのべよ

五 ちゝよりみたまを　おくりたまへる
よろこびのみつげ　あまねくのべよ

六 よもやもゝれなく　よろづのひとに
よろこびのみつげ　あまねくのべよ

第四十六 Redhead 45. 7s.

和平(おだやか)なる言(こと)を宣(の)ぶる者のその足(あし)は美(うるは)しき哉

一 深山(みやま)にたちて よきおとづれを
つたふるものゝ あしはうるはし

二 みたみのきみは あたにかちぬと
つげくるこゑぞ いといさましき

三 さきのひじりも もとめもとめて
きかざるこゑを きくみゝのさち

四 ひさしくまちし をさらのみざる
あまつひかりを みるめのさかゐ

五 ものみのつげを よろこびきゝて
みやこもひなも あれのもうたふ

六 み手(て)のちからを あらはすきみの
すくひをあふげ よろづくにびと

47 第四十七　Redempion.　6 of 87.

神光(ひかり)あれと言ひ給ひければ光(ひかり)ありき

一 とこよのやみをば　わかちしかみよ
みことばをきかせ　みすくひのひの
てらさぬくにゝも　ひかりをたまへ

二 めしひのくるしみ　いやしゝきみよ
よひとをあはれみ　わづらひなやむ
こゝろのくらきに　ひかりをたまへ

三 いのちをあたふる　きよきみたまよ
あめよりはのはを　ひろくはなちて
このよのやみぢに　ひかりをたまへ

四 みつのみくらゐの　ひとりのかみよ
しはみちたゝふる　うなばらのごと
あまつみひかりを　あまねくたまへ

第四十八　Winchester New. L.M.

凡て汝の手に堪ることは力を盡して是をなせ

一　みぬしにならひて　ちゝのみこゝろを
　　なすをばよろこび　みをすてつとめよ

二　このよのさかゐは　かりねのゆめとし
　　みそらにはまれを　つむをばつとめよ

三　つきせぬはまれの　かむりをいたゞく
　　みくにはちかしと　いさみてつとめよ

四　やみよはいたるぞ　おこたりたゆまぞ
　　ひのまにまみちを　ゑめすをつとめよ

五　のぞみなくひゞに　よをさるひとあり
　　よみぢをてらせる　ともしびかゝげよ

六　はなむこきたりて　まちまもるものを
　　ほむるときちかし　よろこびつとめよ

49 第四十九 Diligence. 767575675.

晝(ひる)のうちは我必(かならず)ぞ我を遣(つか)はしゝ
者の行(わざ)をなすべきなり

一 とくいそしめよ　よ(夜)はきたるぞ
わしたのうちに　いそしめよ
つゆのしらたま　かゞやくまに
はなのなかにも　いそしめよ

二 とくいそしめよ　よはきたるぞ
わさひてるまに　いそしめよ
なにもなすこと　かなふまじき
よるのこぬまに　いそしめよ

三 とくいそしめよ　よはきたるぞ
まひるのうちに　いそしめよ
とくゆくときの　わとをおひて
よるのこぬまに　いみしめよ

我は世の光(ひかり)なり

一 わがきみ耶蘇は よのひかり
ちゞよりいでゝ われらにぞ
まことのかみを しらしむる

二 わがきみ耶蘇は よのひかり
くらきにねむる われらにぞ
みのつみとがを さとらしむ

三 わがきみ耶蘇は よのひかり
わがゆくみちを てらしつゝ
あやふきことを たすくなり

四 わがきみ耶蘇は よのひかり
うたがふものは やみをさり
そのみひかりを あふぐべし

五 わがきみ耶蘇は ひのごとく
よろづのくにゝ かゞやきて
よのつみびとを てらすなり

51　第五十一　聖國(みくに)を臨(きた)らせ給へ　Garrett.　7s.

一　耶蘇くろがねの　つゑとりのべて
　　あたのちからを　くだきたまへよ

二　きみのあたふる　むつびとやすき
　　なほきさとすくひ　いづこにあるぞ

三　みちかひのでと　あらそひたゐて
　　いくさなきとき　ちかきにありや

四　あふぐわがめを　よろこばしめて
　　とくみちからを　あらはしたまへ

五　をりのひつじを　おほかみうばひ
　　ひつじもまよひ　みをばけがせり

六　きみをしらざる　そのくにぐにの
　　やみをばてらせ　ありあけのはし

大齋前（創造）

52 第五十二 Wakayama. 7s.

知れヱホバこそ神にますなれ

一 すべてのくによ よろこびのこゑ
ヱホバにあげて ほめたてまつれ

二 ヱホバをかみと よひとさとりて
みまへにきたり かしこみうたへ

三 よのひと〲を つくりしものは
おまつみかみに ましますとしれ

四 われらはかみの ひつじのごとく
そのくさむらに かはるゝたみぞ

五 みなをいはひて みかどにのぼり
みやにてつどひ ほめよたゝへよ

六 みめぐみふかく あはれみみちて
かはらぬまこと よゝにつきせじ

53 第五十三 Pleyell. 7s.

主なる我らの神は惟ひとりの主なり

一 エホバをほめよ よゝかぎりなく
いけるまことの ひとりのかみぞ

二 そのたゞしきと きよきとまことゝ
さときとめぐみ かぎりしられず

三 はじめもあらず をはりもなくて
とこしなへにぞ かはらぬみかみ

四 よろづのものを つくりそなへて
たゑせずまもり たゞしくをさむ

五 みなをたゝへて あふぎたふとみ
つかへまつろへ すべてのたみよ

第五十四　Innocents.　7's.

新(あた)らしき歌(うた)を主にむかひて唱(うた)へ

一　よにすむひとよ　あらたのうたを
　　あまつみかみに　よろこびうたへ

二　ひゞみなをはめ　そのくしわざを
　　ごとくにまでも　ひろめつたへよ

三　ことくにびとの　かみとをがむは
　　みなひとわざに　つくりしものぞ

四　われらのかみは　さかえをまとひ
　　あめつちひとの　みつくりぬしぞ

五　みいづにかなふ　きよきいやしろ
　　たづさへきたり　さゝげまつれよ

大齋前

五十三

55 第五十五 Spanish Chant. 6 of 7.

諸の天は神の榮光をあらはす

一 ひさかたのそら　はてよりはてに
めぐりゆくひも　みつくりぬしの
みてのちからを　あまねくしめす

二 くる丶をまちて　きらめくほしも
つきもかはらぬ　あかしをそろへ
かみのさかえを　くまなくさとす

三 ものはいはねど　そのこゑひゞく
みるものよみな　われらのとみを
そなへたまひし　かみををがめと

56 第五十六 Hanover. 55556565.

永遠へより永遠へまで汝は神なり

一 あをぞらは　みいはりぞ
みころもは　ひかりなり
いにしへより　みいづあり

よろづよまで　つくるなし

二
くもにのり　いなづまを
みいかりの　つかひとし
うみをあらし　とゞろかし
みちからをば　あらはせり

三
かみつちに　はかりなき
たからをば　みたしめて
もとゐをすゑ　かたくたて
わをうなばら　まとはしむ

四
おくやまも　みたにゝも
ひかゞやき　かぜそよぎ
たをうるほす　あめつゆも
みあはれみを　よにしめす

五
つみふかき　ちりのすゑ
あがなひて　いつくしむ
かみをあがめ　みつかひと
ともにうたひ　たゝふべし

57　第五十七　Simpson.　57577.

主は能力(ちから)を衣(ころも)となし帯(おび)となし玉へり

一　あめつちに　ひゞかせうたへ
　　かみのこら(子)　うけしめぐみと
　　そのみさかえを

二　おほわだも　くがもなりでし
　　みちからの　かみのみわざぞ
　　たへにくすしき

三　そむきにし　よにもすくひを
　　たまひける　ふかきめぐみは
　　はかりしられぞ

四　つくすとも　いかでめぐみに
　　むくゆべき　たゞみ(身)とたまを
　　さゝげつかへむ

大齋（たいさい）

58 第五十八　我罪（わがつみ）は常（つね）に我前（わがまへ）にあり

Nippon. 7s.

一
ふかきめぐみの　あまつみちゝよ
つみあるわれを　あはれみたまへ

二
めぐみをわすれ　おきてにそむき
まさみちはなれ　つみををかしぬ

三
なすべきよきは　おこたりがちに
なすべからざる　あしきをなせり

四
ひゞにます〳〵　かさねしつみは
ちりひぢのごと　いやつもりきぬ

五
かずのおほきは　はまのまさごや
みそらのほしと　かぞへつくさじ

六
なべてのつみの　あがなひぬしに
たのみまつるを　あはれみたまへ

59　第五十九　Batty.　87.

我(わが)父よ汝はわが少時(いとけなき)の交友(ともだち)なり

一　ちゝよわがつみの　そびゆるいはと
たかぶるこゝろを　くだかせたまへ

二　かみとやはらぎを　つゝしみもとめ
うきよをはなる、　ものとしたまへ

三　いつくしみのつな　みをつなぎとめ
めぐみのわみにて　かこませたまへ

四　たふときち(血)をもて　このみをきよめ
みぬしのものとし　まもらせたまへ

五　みたまをくだして　わたにかたしめ
たのしきみくにへ　みちびきたまへ

60 第六十 Pentecost. I.M.

主よ我懇求ひに耳を傾け給へ

一 かみよあはれみて　みゝをばかたむけ
このみのいのりを　きこしめしたまへ

二 みそらをあふぎて　みぬしを志たふは
ひさしきひでりに　あめをまつごとし

三 おとろふるわれに　とくちからをそへ
たへなるみかほを　おほひなかくしそ

四 みぬしのめぐみを　このみにあらはし
あゆむべきみちを　さとらしめたまへ

五 われをくるしむる　あたをばほろぼし
よわきたましひを　いかしめたまへよ

61 第六十一 Fight of Faith. DCM.

我は死る者の死を好まざるなり
然らば汝ら悔て生よ

一 さまよへるものよ　たちかへりて
あまつふるさとの　ちゝをみよや
つみをばくやめる　そのこゝろね
ちゝよりおくりし　たまものなり

二 さまよへるものよ　たちかへりて
ちゝなるみかみの　そのみまへに
まことのくいをば　いひあらはせ
ひとはしらずとも　ちゝはしれり

三 さまよへるものよ　たちかへりて
耶蘇のあしもとに　とくひれふせ
きみはあはれみて　みてをのばし
こぼるゝなみだを　ぬぐひたまふ

四 さまよへるものよ　たちかへりて

じふじのうへなる　耶蘇をみよや
ちしはのながる、　みて(手)をひろげ
いのちをうけよと　よびたまへり

62 第六十二　Evelyn. 7s.

今日其聲(そのこゑ)を聽(きか)ば心を剛愎(かたく)なにするなかれ

一 けふこそちゝは　まねきたまへば
やみぢにまよふ　ものみなあふげ

二 けふこそみこ(子)は　まねきたまへば
つみをうれふる　ひとみなすがれ

三 けふこそみたま・　まねきたまへば
よわきをなげく　ものみなきたれ

四 このよのほろび　ちかづきぬれば
まねくみかみに　とく立たがへよ

63　第六十三　Newark.　57577.

今日と稱(とな)ふるうちに日々互(たがひ)に相(あひ)勸(すゝ)めよ

一　あすありと　はこれるひとよ
いそぎきけ　けふとぞつぐる
よろこびのこゑ

二　けふといふ　けふそのこゑの
きこえぬる　けふのすくひを
なはざりにすな

三　たれにても　きたれるものは
すてじとの　めぐみのちかひ
たのめつみびと

64　第六十四　S. Philip.　777.

今は恩惠(めぐみ)の時(とき)なり今は救(すくひ)の日なり

一　みめぐみのとき　すぎさるまへに
ひれふしいのる

二　つみをかなしみ　あしきをすつる
こゝろをたまへ

三　みかどをとぢぞ　ねがふわれらに
みたまをそゝげ

四　みすくひのひを　なみするこゝろ
なからしめませ

五　ひとよ（一夜）なやみて　志（死）のさかづきを
いとはぬきみよ

六　あはれみたすけ　みいつくしみを
ゆたけくたまへ

65　第六十五　Imayō.　8 of 75.

逃(のが)れて汝の生命(いのち)を救(すく)へ

一 いそげやいそげ　たびのひと
みちにていこふ　ことなかれ
ときをうつさば　よ(夜)となりて
やみとなやみに　あひぬべし

二 そらかきくもり　あめそゝぎ
かぜすさまじく　ふきおろし
し(死)のなみたかく　うちよせて
な(汝)がゆくみちを　ふさぐべし

三 かみのつかひに　みちびかれ
やまべをさして　のがれよや
うしろをみるな　とゞまるな
いそげやいそげ　たびのひと

視よ我れ戸の外に立て叩く

一
耶蘇はとぢたる　かどべにたち
いりてすまんと　まちたまふぞ
みこゑをきかば　こゝろのとを
などかひらきて　いれまつらぬ

二
いばらをかむり　きずのてにて
なみだながらに　とをたゝける
きみのみめぐみ　かりそめにも
いなみてつみを　などかさぬる

三
われはながため　ころされしに
などこばむぞと　とひたまへば
とをうちひらき　きみをまねき
ながくこゝろに　すまはすべし

97 第六十七 Heinlein. 7s.

かれ四十日野(の)にありてサタンに
試(こゝろみ)られたり

一 よそか(四十日)ふるまで かてをもたちて
あたのてだてに わがきみかてり

二 そのたゝかひの ためしにならひ
耶蘇をはめつゝ あたにかつべし

三 わがみのねがひ このよのとみも
ほこりもすてゝ かみにつくべし

四 かみのをしへの みたまのつるぎ
ふりかざしつゝ あたをうつべし

五 かちぬし耶蘇よ ちからをそへて
せめくるあたに かたしめたまへ

第六十八　Nippon.　7s.

目を醒(さま)しかつ祈(いの)れ

一　あたのかこめる
つねにやすまで
耶蘇のつはもの
めさましいのれ

二　あたのをさども
むれをつのれば
ひまをうかゞひ
めさましいのれ

三　われふしをれば
わけくれぬがで
かみのよろひを
めさましいのれ

四　かちしむかしの
よびはげませば
つはものすべて
めさましいのれ

五　うやまひしたふ
こゝろにとめて
きみのことばを
めさましいのれ

六　はげみたたかひ
かみのたすけを
つねにめさまし
ひたすらいのれ

69 第六十九 Canterbury. 7s.

主は心の傷(いた)める者を醫(いや)したまふ

一 あたにうたれて ふかでをおへる
しぬべきわれを いかにいやさむ

二 つみあるひとの きずをいやすは
ひとのうらみに さゝれして[手]なり

三 かなしみおほく なやめるむねに
あふるゝなみだ たがあはれまむ

四 ひとにすてられ よのつみをおひ
なやみになやみ くだけしむねぞ

五 かみをいからせ わがみをけがす
あまたのつみを いかにあらはむ

六 つみをあらふは たゞつみびとの
さしてながしし ち[血]のながれのみ

七 耶蘇みてをのべ みむねをひらき
みち[血]のながれに きよめたまへよ

苦死節(くしせつ)

07 第七十 Ouseley. 6 of 7.

日々その十字架(じふじか)を負(お)ひて我に従(したが)へ

一 ともよサタナの ちからをしらば
そのゝこかげに うれふるきみと
ともにめさまし いのるをまなべ

二 ピラトのにはに 耶蘇をともなひ
みさばきぬしの さばきをうけし
なやみをみつゝ しのぶをまなべ

三 ゴルゴタやまに またきなだめを
さゝげしきみの ことをはりぬと
よばゝるをきゝ しぬるをまなべ

71 第七十一 Redhead 76. 6 of 7.

主イエスキリストの十字架（じふじか）の外（ほか）に誇（ほこ）ることなからんことを願（ねが）ふ

一 さかえのきみの　じふじをみれば
とみもほまれも　のぞみもすべて
われにとりては　ものゝかずかは

二 はかなきものに　こゝろをよせぞ
みなすてはてゝ　じふじのうへの
きみのちしほを　ほこるのみなり

三 いばらのかむり　みてとわしより
ゑたゝるち（血）こそ　つみのおもきと
きみのめぐみを　わらはしにけれ

四 よにわるたから　にへとなすとも
みいつくしみの　むくいにたらぞ
みもたまゑひも　みなさゝぐべし

五 みじかきこのよ　はかなきわがみ
じふじのうへの　きみがめぐみに
つきぬいのちを　うるぞうれしさ

第七十二 S. Nicholas. 6 of 75.

キリストは我儕(われら)のなほ罪人(つみ)たる時(とき)われらの爲(ため)に死に給へり

一 きみはわれらを すくふため
ユダのみやこの そとのやま
きにかけられて くるしみぬ

二 そのうきことの ふかさをば
はかりえざれど われらゆゑ
なやみませしは あきらけし

三 そのみめぐみに われ〳〵は
みもたましひも きよめられ
みくにゝすまふ みとならむ

四 われらのつみを あがなひて
あまつみやこの とをひらき
いらしむるもの 耶蘇のみぞ

五 みいつくしみを おもひつゝ
そのあがなひに よりすがり
きみのみわざに ならふべし

苦死

73 第七十三 Redhead 47. 8 of 7.

自ら我らの患ひを受けわれらの病を負ふ

一
耶蘇よみぬしは　このよにうまれ
よのうきことを　しろしめしなば
かへらぬひとの　あとをしたひて
かなしむときに　たすけをたまへ

二
耶蘇よみぬしは　よのつみをおひ
ちぢとなげきを　しろしめしなば
わがみにもてる　つみをかなしみ
おそるゝときに　たすけをたまへ

三
耶蘇よみぬしは　じふじにかゝり
しのくるしみを　しろしめしなば
よをさるときも　またみさばきを
うくるときにも　たすけをたまへ

第七十四　S. Cross.　L.M.

彼(かれ)を十字架(じふじか)に針(つけ)たり

一　なみだをながして　じふじかのもとに
きたりてひれふせ　みまかりたまふぞ

二　かたくなびとらの　わざけりわらふを
たへしのばれつゝ　みまかりたまふぞ

三　てわしくぎうたれ　みめ(眼)はち(血)にくらみ
くちいとかわきて　みまかりたまふぞ

四　なゝ(七)こと(言)をかたり　みとき(三時)ものいはで
よのすくひをねぎ　みまかりたまふぞ

五　よひとのけがれを　きよむるいづみを
わきよりながして　みまかりたまふぞ

六　きみをいつくしみ　みのつみをなげく
こゝろをもとめよ　みまかりたまへば

75　第七十五　Caswall.　75.

此血(このち)の言(いふ)ところアベルの血(ち)のいふ所(ところ)より尤(もつと)も愈(まさ)れり

一　いのちのちしは　わがために
　　ながしし耶蘇に　さかゑわれ

二　よのひと〴〵を　ほろびより
　　すくふいづみを　たゝふべし

三　みち(血)よりいづる　あはれみと
　　よゝのいのちぞ　したはしき

四　むくいをこひし　ち(血)にまさり
　　ちゝよゆるせと　みち(血)のこゑ

五　けがれしこゝろ　きみのち(血)に
　　そゝがれあたを　のがれしむ

六 よのひと〴〵も　みつかひも
ながる丶みち(血)を　た丶ふべし

76 第七十六 Anon in Eb. 6 of 75.

イエスを望(のぞ)むべし

一 耶蘇みすくひの　ちからにて
じふじのうへの　みかはをば
わふがせたまへ　よもひるも

二 きみのさ丶れし　みわきより
わきてながる丶　ち(血)のいづみ
おもはせたまへ　よもひるも

三 われらがために　ちをながし
このみのつみを　わがなひし
みぬしをみばや　よもひるも

77 第七十七　Litany in C. 7s.

かれ自（みづか）ら誘（いざな）はれて艱難（くるしみ）を受（うけ）たれば誘（いざな）はる、者を助（たす）け得（う）るなり

一 あまつみやこの　しろにいませる
ちゝこみたまよ　かへりみたまへ

二 われらのために　あざけられつゝ
うさをしのびし　耶蘇きこしめせ

三 みたりのともの　ねむりしときに
いたくうれひし　耶蘇きこしめせ

四 このさかづきを　ちゝよのぞけと
みたびいのりし　耶蘇きこしめせ

五 とらふるひとを　みちびくあたに
くちつけられし　耶蘇きこしめせ

六　いばらをかむり　よしをもたされ
のゝしりうけし　耶蘇きこしめせ

七　バラバをえらぶ　ユダヤのたみに
すてはてられし　耶蘇きこしめせ

八　じふじのおもに　おふちからなく
つかれ〱し　耶蘇きこしめせ

九　ゴルゴタやまに　くぎのいたみと
はおをたへにし　耶蘇きこしめせ

十　ころもをくじに　わかちしわたに
なみせられにし　耶蘇きこしめせ

十一　なゝことかたり（七言）　みちゝにたまを
ゆだねてしにし　耶蘇きこしめせ

十二　わたにかこまれ　さそひにおはゝ
よわきわれらを　すくはせたまへ

復活日（よみがへりび）

78　第七十八　Easter Hymn New.　7s.

キリスト死より甦（よみがへり）て復（また）死なず

一　すくひのぬしは　ハレルヤ
よみがへりしぞ　ハレルヤ
かちどきあげて　ハレルヤ
わがめまつれよ　ハレルヤ

二　じふじをしのび　ハレルヤ
はかにもいまし　ハレルヤ
よのうしなひし　ハレルヤ
とみをかへせり　ハレルヤ

三　きみのいたみに　ハレルヤ
われらいやされ　ハレルヤ
あまみつかひと　ハレルヤ
ともにうたはむ　ハレルヤ

79 第七十九 Easter Hymn Old. 8 of 7.

主實(まこと)に甦(よみがへ)りたり

一 ほろぶるものを　わがなふために
はぢとくるしみ　死をさへうけし
わがきみ耶蘇の　よみがへりにし
けふをばいはへ　ハレルヤ

二 よのつみびとを　すくはむために
じふじにかゝり　はかにもいりし
あまつぬしなる　耶蘇のみまへに
かちどきあげよ　ハレルヤ

三 なだめをさゝげ　ちゝのみこゝろ
なしをへたまひ　さかえにかへり
いまはみくにの　みつかひたちに
ほめたゝへらる　ハレルヤ

四 ちゝとみたまを　たゝへてうたへ
あまみつかひよ　ハレルヤ
あらゆるひとよ　ハレルヤ
いつもたえせぞ　ハレルヤ

80　第八十　Victory.　8884.

死を以て死の權威(けんゐ)を有(も)てる者を滅(ほろぼ)せり

一　ハレルヤ　ハレルヤ　ハレルヤ
あらそひを、へて　いくさよりかへる
きみをはめうたへ　ハレルヤ

二　耶蘇し(死)のつかさの　いきはひをやぶり
かちぬしとなりぬ　ハレルヤ

三　きよきしの、めに　よみよりのぼりて
をさとあらはれぬ　ハレルヤ

四　わがためうたれて　しにかちしきみよ
みたみをもいかせ　ハレルヤ

81　第八十一　Lendisfarne.　78784.

われ生れば爾曹も生む

一　きみいきませば　しのおそれあらじ
わがみをつなぐ　はかのちからなし

ハレルヤ

二 きみいきませば
つきぬいのちに
しははろびならで
いるべきかどなり
ハレルヤ

三 きみいきませば
あらはすわざを
そのかゞやきをば
つねにつとむべし
ハレルヤ

四 きみいきませば
よ(世)もし(死)もよみ(陰府)も
そのみまもりより
われらをうばはじ
ハレルヤ

五 きみいきませば
またきちからに
ちゝのみぎにたち
あめつちをゝさむ
ハレルヤ

六 きみいきませば
ともにやすきと
みくにゝいたりて
さかえをうけばや
ハレルヤ

82 第八十二 S. John Damascene (1) 8 of 76.

既(すで)に神ハイエスを甦(よみがへ)らせ給へり

一
したがふひとは　みなよろこべ
かみはなやめる　たみをすくひ
あしもぬらさで　うみをわたし
あたのくにより　いだしませり

二
しばしみはかに　いねたるきみ
ひのでといでゝ　いやかゞやき
つみのさむさの　ふゆをのぞき
めぐみのはるを　むかへませり

三
すべていはひの　かしらとなる
よみがへりびを　よろこぶたみ
かみのみやこに　うたひつどひ
そのいつくしみ　あらはすべし

四
し(死)のは(刺)りをとり　よみのかどを
ひらくめぐみを　よにたまひし
ちゝとみたまと　みこをたゝへ
いざハレルヤを　となへまつれ

83　第八十三　Wirtemburg.　7s.

如此(かくのごとく)キリストは第三日に死より甦(よみがへ)るべし

一 耶蘇よみがへり　し(死)のかせくだく
そのいさをしを　みつかひうたふ
ハレルヤ

二 サタナにかちて　よのおはきみと
なりたまひしを　われらもうたふ
ハレルヤ

三 じふじのなやみ　しのびしのちは
あめにいまして　とりなしたまふ
ハレルヤ

四 くいあらためと　つみのゆるしと
すくひのみちを　よにつけたまふ
ハレルヤ

五 きみよわれらの　つみをばのぞき
つねにみまへに　うたはせたまへ
ハレルヤ

昇天日

84 第八十四 Ratisbon. 6 of 7.

永遠の戸よあがれ榮光の王入りたまはん

一 耶蘇よみがへり みくにゝのぼり
よみのちからを とりことなして
あまつみかどに ひきゐてきたる

二 みかどにたちて みつかひうたふ
とこしへのとよ かしらをあげて
さかえのきみを いれたてまつれ

三 さかえのきみは たれぞやたれぞ
あらゆるあたを はろぼしたまふ
いくさにたけき かちぬし耶蘇ぞ

四 こがねにてれる あまつみやこの
たまのみかどよ いまうちひらけ

さかゑのきみを　いれにてまつれ

五　さかゑのきみは　たれぞやたれぞ
あまみつかひと　よのひとぐゝと
よろづのものゝ　きみなる耶蘇ぞ

85　第八十五　Holly.　L.M.

我汝の仇(あた)を汝の承足(あしだい)とするまで
はわが右(みぎ)にざすべし

一　エホバわがきみを　みぎにたゝせつゝ
なが(汝)わしのもとに　わたをばふますと

二　なが(汝)て(手)のみつゑは　かみのゑろをいで
わたのくにゝに　ゆきてぞをさむる

三　なが(汝)たみきよきを　よろひとしいさみ
いのちをもさゝげ　なが(汝)ちからをはむ

四　わしたのはら(胎)より　いづるつゆのでと
かみのますらをの　うるはひはつきじ

86　第八十六　Dix.　6 of 7.

主は天に挙(あげ)られ神の右(みぎ)に座(ざ)しぬ

一　かみのみこなる　わがなひぬしは
わめにのぼりて　さかえをまとひ
みちゝのみぎに　いきましませり

二　はづかしめられ　ころされしかど
よろづのものゝ　かしらとなりて
みちゝのみぎに　いきましませり

三　つみにしづみし　われらをすくひ
いやいつくしみ　とりなすために
みちゝのみぎに　いきましませり

四　われらをまもり　たのしみえてる
おまつすまひを　そなふるために
みちゝのみぎに　いきましませり

五　よみよりわれを　すくひいかしめ
みくらのまへに　いたらすために
みちゝのみぎに　いきましませり

87　第八十七　Nearer. Home. DSM.

汝高き處にのぼり虜者をとりこにして率ゐ給へり

一
いまみぬしは　あめにのぼり
みつかひのたゝへ　うけたまへど
われらはよに　なやみすめば
ちかひしみたまを　くだしたまへ

二
きみはかつて　よのなやみを
くまなくわたりて　のぼりませば
うさのうちに　たどるたみを
めぐみてみそばに　みちびきませ

三
あまつかひを　みなひきゐて
ふたゝびこのよに　[臨]きたまふとき
われらきみの　みぎのかたに
みくにのよつぎと　たゝせたまへ

88 第八十八　Weber.　7s.

祭司(さいし)の長(をさ)たるイエスを深(ふか)く思(おも)ふべし

一 あまつみやにて　われらのさがを
まとへるきみは　まつりをつとむ

二 よひとのつみを　あがなふちしは
ながえし耶蘇は　いまとりなすぞ

三 ひとのみ(身)となり　あめにのぼりて
ひとのよわきを　あはれみたすく

四 うきさかづきを　あまさずのみて
いまわがなやみ　なぐさめめぐむ

五 みぬしをたのみ　みくらにふして
かみのたすけを　いざもとむべし

89 第八十九　S. Gertrude.　8 of 7s.

我れわが王を我聖(わがきよ)きシナンの山

にたてたり

一　あなかしがまし　いかなれば
よものくにびと　さわぎたち
すべてのたみは　うちつどひ
むなしきことを　はかるぞや

二　もろ〳〵のきみ　たちかまへ
をさらとゝもに　あひはかり
あまつみかみと　キリストに
あたとなりてぞ　さからへる

三　あまつみかみは　いきどほり
かのしれものを　おどしめて
きよきみやまに　わがきみを
けふよりたてゝ　わがことす

四　われにもとめよ　さらばわれ
よろづのくにを　ゆづりとし
ちのはてまでも　ながものと
なしてあたふと　のたまへり

聖靈降臨日

90　第九十　S. Cuthbert.　8685.

父必ぞ別に慰むる者を爾曹に賜ふべし

一 わがきみこのよを　さりてのちに
なぐさむるものを　つかはせり

二 へりくだるこゝろ　みやとなして
ちからとよろこび　みたすなり

三 たへなるみこゑは　とがをたゞし
おそれをしづめて　はげましむ

四 きよきにすゝむと　あしきにかつ
ちからはみたまの　たまものぞ

五 みたまよあはれみ　わがこゝろを
いさぎよきみやと　なしたまへ

六 ちゝみこみたまの　みつのくらゐ
ひとりのみかみを　あがむべし

第九十一　Vienna.　7s.

聖靈も亦われらの荏弱さを助く

一 みたまのかみよ　をかせるつみを
わらはにてらし　くいさせたまへ

二 みたまのかみよ　けがれしみをば
きよめてつねに　みやとしたまへ

三 みたまのかみよ　よわきこのみを
つよめてわたに　かたしめたまへ

四 みたまのかみよ　まよへるわれを
たゞしきみちに　みちびきたまへ

五 みたまのかみよ　いのりをたすけ
ちゝのみむねに　かなはせたまへ

六 ちゝとみことより　いづるみたまよ
われをはなれぞ　なぐさめたまへ

第九十二　Koriyama.　57577.

もし神の靈(れい)汝らに住(す)まば汝らは
肉(にく)に在(あ)らで靈(れい)に在(あ)らん

一　なぐさめを　そゝぐみたまよ
　　うきくもの　かゝるこゝろを
　　ひらきみちびけ

二　わがつみを　きよむるきみよ
　　みちびきて　あがなひのち(血)に
　　われをあらひね

三　うたがひの　くもふきはらし
　　みすくひの　ひかりをしめせ
　　くらきこゝろに

四　あらたなる　いのちをたまふ
　　かみならで　たれによりてか
　　し(死)をのがるべき

五　わがこゝろ　みたまのひかり
　　うけてこそ　あきらかにしれ
　　みつのみなをも

第九十三　Meleombe.　L.M.

凡(およ)そ神の靈(れい)に導(みちび)るゝ者は是(これ)すなはち神の子なり

一 おまつみはとなる　めぐみのみたまよ
志づけくだりて　なぐさめをたまへ

二 かしづきとなりて　こゝろのおもひも
おこなふ志わざも　つかさどりたまへ

三 まことをあらはし　われらをてらして
うれしきちまたを　あゆましめたまへ

四 みたみのこゝろに　つゝしみをあたへ
かみをはなるゝを　なからしめたまへ

五 いのちのみちなる　耶蘇にゆかしめて
みあとにしたがひ　すゝましめたまへ

六 われらをきよめて　かみのみすまひの
とこしへのさちに　みちびかせたまへ

「此の外第百二十七のうたを用ふるも妨げなし」

三位一体主日

94 第九十四　Durham. 7s.

神の僕よ神を畏るゝ者よ皆われらの神を讃美すべし

一
よろづのものを　つくりたまひし
ちゝなるかみを　あがめたゝへよ

二
すべてのひとを　あがなひましし
みこなるかみを　あがめたゝへよ

三
えらびのたみを　きよめたまへる
みたまのかみを　あがめたゝへよ

四
ちゝこみたまの　みつのくらゐは
ひとりのかみぞ　あがめたゝへよ

95 第九十五 Schumann's Chorale. 8 of 87.

汝我を導(みちび)きてそのゆくべき道(みち)を
ゆかしむ

一 みちゝようきよの　あらなみわたる
われらをみちびき　まもらせたまへ
めぐみのもとなる　ちゝよりほかに
たすけをこふべき　ものしなければ

二 みこ耶蘇つみをば　ゆるしたまへよ
みぬしはわれらの　さきによをふみ
あれのにくるしみ　こゝろみられて
よひとのよわきを　さとりたまへば

三 みたまよくだりて　あまつたのしみ
あまついつくしみ　さづけたまはゞ
まもられゆるされ　なぐさめられて
たえせずこゝろに　やすきをうべし

96 第九十六　Nicea.　8 of 75.

聖きかな聖きかな聖きかな主たる全能の神

一 いときよきかな　めぐみある
みつのみくらゐ　ひとつなる
かみのみなをば　あさまだき
おきいで、こそ　はめまつれ

二 いときよきかな　とこしへに
ましますかみの　まへにふし
ひじりもかむり　なげすてゝ
みつかひともに　みなをほむ

三 いときよきかな　そのみいづ
つみあるめには　みえねども
みいつくしみの　みち〳〵し
かみのいさをぞ　たぐひなき

四 いときよきかな　つくられし

わめつちうみの　ものはみな
みつのみくらゐ　ひとつなる
かみのみなをぞ　はめまつる

97 第九十七 Capetown. 7.7.7.5.

汝の外に我誰をか天にもたん地には汝の外に我慕ふ者なし

一 みつのくらゐの　ひとりのかみよ
われらのいのり　きゝたまへ

二 あさひとゝもに　かみのひかりを
われらにてらし　たまへかし

三 ひくる、こゝろは　つみをゆるして
やすきこゝろを　たまへかし

四 いまはおぼろに　みわけまつれど
つひにみそばに　すまはせよ

98　第九十八　Winchester Old. C.M.

神はその生たまへる獨子を賜ふ
はどに世の人を愛し給へり

一　ひとりのみことをば　わたふるはど
ひとをいつくしむ　ちゝをはめよ

二　なやみをいとはず　ちをながして
つみをわがなひし　みことをはめよ

三　けがれしこゝろを　いさぎよくし
つよむるみたまを　ともにはめよ

四　ひとりのかみなる　ちゝとみことと
みたまのめぐみを　よゝにはめよ

99　第九十九　Lusatia.　8 of 87.

寶座をその高處にする己れをひ
くゝして天と地とをかへりみた

まふ

一　われらのちゝなる　まことのかみは
いとたかきあめの　みくらにませど
へりくだるものゝ　こゝろにすめり

二　われらのきみなる　耶蘇キリストは
いとたかきかみの　ひとりごなれど
さかえをすてゝぞ　よにくだりける

三　かみのつかはせる　みたまのかぜは
あまつみそらより　よにふきくだり
あをひとぐさをぞ　なびかせたまふ

四　ひとはあらがねの　つちよりいでゝ
いやしきさまなる　ものにしあれど
そのみをわすれて　おごりたかぶる

五　いざへりくだれや　つみあるともよ
たかぶるこゝろの　かうべをたれて
じふじかのもとに　きたりひれふせ

聖日

100 第百　Hopkins in Bb.　6 of 7.

我儕(われら)の兄弟(きやうだい)は羔(こひつじ)の血(ち)によりて之に勝(か)てり

一 サタナのくにを　うちたひらぐる
　みこ(子)のいくさの　ち(血)にそむはたに
　ゑたがひすゝむ　つはものたそや

二 はおをいとはず　なやみをしのび
　きみのじふじを　おひうるひとは
　このはたもとに　ゑたがふものぞ

三 そのみいくさに　さきがけせしは
　耶蘇にならひて　わたをゆるせと
　いのりもとめし　わかしびとなり

四 このますらをは　するどきめもて
　わまつさかゑを　はるかにみつゝ
　きみのたすけを　こひてねむりき

五 つぎには耶蘇の　つかひびと(使徒)たち
　つよきのぞみに　こゝろいさみて
　つるぎけものに　みをぞはたせる

六 そのおとにつき　つはものおほく
をみなをとこと　くびすをつぎて
耶蘇のみはたに　したがふをみよ
七 きみよわれらに　あやふきをたへ
おそれたゆまず　かちいくさせし
このつはものに　したがはせてよ

101　第百一　St. Andrew.　87.

我に從がへ

一 よのなみさわげど　いときよらかに
われにしたがへと　みこゑぞひゞく
二 むかしつかひゞと　このこゑをきゝ
よのものをすてゝ　とくしたがひぬ
三 なきつよろこびつ　つとめやすむも
われらをまねける　みこゑはきこゆ
四 むなしきたからや　はかなきとみに
ひれふしつかへぞ　われにしたがへ
五 きみのうながせる　こゑにおこされ
したがひまつるを　にさしめたまへ

第百二　Edgbaston.　8 of 75.

凡て天の使者は救を嗣んとする者に事ん爲め遣はさる、靈に非ぞや

一
かみのみかはを　あふぎつゝ
わがめたゝふる　みつかひは
たへなるわざを　なしうるも
みなわがゝみの　しもべなり

二
かみのことばに　したがひて
おそへるわたに　かこまれし
よわきみたみの　おやふきを
まもりたすくる　ますらをぞ

三
われらもともに　かみをはめ
みたすけをうけ　あたにかち
のちみつかひの　さまとなり
かみのみまへに　すまはせよ

國祭

第百三　Magdeburg.　6 of 87.

願（ねが）くは神その聖顔（みかほ）を我らの上に照（て）らし給はんことを

一　いつくしみにみち　みちからにとみ
あめつちをすぶる　かみのみまへに
よろこびのゐやを　なしたてまつる

二　くにのわざはひと　わたとをふせぎ
なりいでものをも　ゆたけくたまふ
みめぐみをいかで　たゝへざらめや

三　みことばのひかり　たかねのうへも
みたにのそこにも　かゞやかしめて
そのうれしきみ（官）を　むすばせたまへ

四　わがくにのひとに　たかぶりをすて
つみをうれひつゝ　つかはしまをし
わがなひぬしをば　あふがせたまへ

五　耶蘇あらはれなば　このくにのたみ
あまたうちつどひ　すくひのうたを
うたはしめたまへ　あまつみかみよ

104 第百四 Spanish Chant. 6 of 7.

我れ心に願(ねが)ふ所(ところ)と神に祈(いの)る所は
イスラエルの救(すくは)れんこと也

一 かみよわれらは よろづのくにの
さちをいのれど うまれしくにを
ことにいはへと ひたすらいのる

二 さかひをまもり わたをばふせぎ
みやこはさかえ たはたはみのり
くにゝやすきを みたしめたまへ

三 こゝろをあはせ かみにつかへて
たのしむうたの こゑのかぎりを
のやまにみたせ ひゞかさしめよ

四 いまわがくにを まかせまつれば
たえせぞたみの のがれがとなり
めぐみのもとに すましめたまへ

105 第百五 Monkland. 7s.

恩恵(めぐみ)をもて年(とし)の冕弁(かんむり)をしたまへり

一 はめよたゝへよ　われらのかみの
ふかきめぐみは　いつもかはらぬ

二 ひゞにたがはぞ　ひをかゝやかす
ふかきめぐみは　いつもかはらぬ

三 よごとさやかに　つきはしてらす
ふかきめぐみは　いつもかはらぬ

四 いなぼうるはす　わめつゆそゝぐ
ふかきめぐみは　いつもかはらぬ

五 たのも(田面)ゆたけく　みのりをみたす
ふかきめぐみは　いつもかはらぬ

六 いまいなのやに　かりいれをさむ
ふかさめぐみは　いつもかはらぬ

七 なはたましひの　たふときかてを
たまふめぐみは　いつもかはらぬ

八 よろづのものよ　めぐみのきみの
ちゝこみたまを　はめよたゝへよ

聖餐

106　第百六　Leicester.　C.M.

我が家の裏に入れ奉るは憚多し

一　いさをなきむねに　いれまつるは
いときよききみよ　おそれおほし

二　いさをなきわれに　ちかよらむも
たゞひとことにて　いやしうべし

三　かくみちと肉を　たまふきみを
いさをなきわれは　いなむをえぬ

四　いまきたりやどり　おまつかてを
いさをなきわれに　みたしたまへ

107　第百七　Webb.　8 of 76.

我肉は誠の食物また我血は誠の飲物なり

一
すくひぬしなる
いのちのかての
しするよのひと
いかしむるため
みちゝのみこ
耶蘇キリストは
ふかくめぐみ
あまくだりぬ

二
ひととうまれて
くるしみをうけ
たふときみより
なだめのみにへ（犠牲）
ひとのために
じふじにしゝ
ちをながして
とげたまひぬ

三
たましひをもて
のみくらふもの
うゑかわくこと
きよきよろこび
みち（血）としゝ（肉）を
いのちをうけ
つねになくて
たゑざるべし

四
すくひぬしなる
いのちのかてよ
やしなひつよめ
つきぬいのちを
みちゝのみこ
このしもべを
いさぎよくし
ゑさせたまへ

第百八　Ratisbon.　6 of 7.

主の死を表して其来る時までに
及ぶなり

一　すくひのぬしは　われらのために
じふじにかゝり　そのみをさかれ
ちしはをながし　くるしみしにき

二　われらはきみの　きたまふひまで
きよきみわへを　よろこびまもり
みいつくしみの　志をしめすべし

三　いまよりのちは　このみをきみに
さゝげまつりて　ちからをつくし
つねにみむねを　なさしめたまへ

第百九　Coena Domini.　10 10.

汝等來りて我糧を食ひ我交せ合せたる酒を呑め

一　ちかよりきみのしゝと　ながされしちをうけよ

二　すくひのみちとしゝに　いかされてほめまつれ

三　かみのこはしをしのび　すくひをとげたまひき

四　もろびとのなだめとし　をのれをさゝげませり

五　いにしへのいけにへは　みこのしのかたなるぞ

六　しをいかしよをてらし　みたみをたすけつよむ

七　たのむものをまもりて　よゝのいのちをさづく

八　かわくものをうるほし　うゝるものをわかしむ

九　たゞへつゝちかよりて　すくひのしるしをとれ

十　よのすゑのさばきぬし　いまいませばかしこめ

110 第百十 Bread of Heaven. 6 of 7.

我は生命(いのち)のパンなり

一 あまつみかてよ　よひとのために
さかれたまひし　みしゝをさづけ
しのかちぬしの　いのちをたまへ

二 あまつみつるよ　みよりしぼりし
ちしはのしるを　いまのましめて
こゝろのそこも　きよくしたまへ

三 すくひのもとよ　われらにいまし
われらもきみに　つねにをらしめ
ちゝのみわざを　ならはせたまへ

111 第百十一 Cassell. 6 of 7.

神われらとゝもに在り

一　よのはじめより　かみをしめしし
かみのことばは　よにあらはれて
われらとゝもに　ましますかみぞ

二　みたまによりて　をとめにやどり
よにいでたりし　かみのひとりご
われらとゝもに　ましますかみぞ

三　そのみちかひを　たのみつどひて
こゝろをあはせ　もとむるときに
われらとゝもに　ましますかみぞ

四　きみのさだめを　うやまひまもり
そのち（血）とし（肉）ゝを　のみくらふとき
われらとゝもに　ましますかみぞ

112 第百十二 North Coates. 75.

我に来れ我汝ら(やす)を息ません

一 わがきみ耶蘇の なぐさめを
こゝろにうけて ちかづけよ

二 つかるゝものは きみへゆき
おもにをおろし やすむべし

三 かみはよひとを いつくしみ
ひとりのみこを つかはしぬ

四 みこにたよらば かぎりなく
ほろびをのがれ いきぬべし

五 つみあるものを すくふため
耶蘇きたりしぞ まことなる

六 つみををかさば みなだめを
そなへし耶蘇は とりなすぞ

七 このなぐさめを よろこびて

みぬしをわふぎ　ちかづけよ

聖洗

113 第百十三　S. Bees. 7s.

孩提を我に來らせよ

一 ちゝなるかみよ　このをさなごを
めぐみのくにゝ　うけいれたまへ

二 みすくひぬしよ　このをさなごの
もとのけがれを　のぞかせたまへ

三 きよきみたまよ　このをさなごに
あらたのこゝろ　つくらせたまへ

四 ちゝこみたまと　たゝふるみかみ
このをさなごを　すくひたまへよ

114 第百十四　French.　C.M.

爾我等の主の證をなすことを恥となす勿れ

一　みぬしじふじかに　しにまししを
　　はこるみしるしを　いまぞしるす

二　はづるなくきみの　みなをたのむ
　　みしるしひたひに　いまぞしるす

三　みはたのもとにて　つねにあたを
　　ふせぐみしるしを　いまぞしるす

四　じふじかをおひて　みあとをふみ
　　したがふしるしを　いまぞしるす

五　そとなるそゝぎを　うけしものに
　　うちなるめぐみを　あたへたまへ

六　じふじをいたゞく　このひたひに
　　さかえのかむりを　えさせたまへ

第百十五　S. Sebastian.　

悪(あ)しき念(おもひ)を濯(そゝが)れ清(きよ)き水をもて身を洗(あら)はれ

一　わらたにうまれ　わまつみちゝの
ことつらなりて　よつぎとなれる
このひとぐを　さきはひたまへ

二　いまつみとがを　ゆるされしみを
つねにきよめて　わがなひぬしの
みちのそゝぎを　うけしめたまへ

三　かみのみたまの　めぐみをうけし
このたましひを　つねにつよめて
きよきおもひを　いだかせたまへ

四　いまちゝとこと　みたまのみなに
いれられしみに　うへよりくだる
よきたまものを　ゑせしめたまへ

堅信禮

116　第百十　Pastor Bonus.　8 of 75.

彼等の上に手を按きければ彼等聖靈を受けたり

一　あふぐみともを　いはひつゝ
あまつみくにゝ　のぼりにし
みすくひぬしよ　みてをわげ
まてるしもべを　めぐみませ

二　みつかひゞとの　てによりて
すべてみたまの　たまものを
くだしゝきみよ　ちかよりて
いまもみたまを　そゝぎませ

三　かみのみむねを　さとしつゝ
よきわざのみを　むすばしめ
たねぞまもりて　みことなし
つひにみくにゝ　いたらせよ

第百十七 Newington. 7s.

我が設くる日にかれらをもて我寳となすべし

一 あまつみちゝよ　たよるわれらを
やちよにみこと　なさしめたまへ

二 なやみをしのび　あたとたゝかふ
よきつはものと　なさしめたまへ

三 たえずまもられ　みこゑをきける
きみのひつじと　なさしめたまへ

四 つみのゆるしと　ゆたけきめぐみ
うくるみたみと　なさしめたまへ

五 よにさそはれず　みくにのさちを
のぞむよつぎと　なさしめたまへ

118　第百十八　Freiburg. 8 of 87.

我に事ふる者は我をる所に在らん

一
耶蘇よをはりまで　つかへまつると
ちかひをたてたる　われをともなひ
みくにのまさみち　まよはずわゆみ
おそへるわたにも　かたしめたまへ

二
いざなふよのこゑ　わがみ丶にみち
まどはすいろかも　めのまへにあり
うちとのわやふき　つねにつどへば
みかはをわはらし　ちかよりたまへ

三
たへなるみこゑを　たゑぞきかしめ
さからふこ丶ろの　わらしを玄づめ
つぶやきをとゞめ　おこたりをさり
きよきみことのり　まもらせたまへ

四
きみのみわとをば　たがはぞふみて
みちからをたのみ　玄たがひす丶み

つひにをはりまで　つかへしのちに
みちかひのさかゐ　うけしめたまへ

119 第百十九　S. Ethelwald. S.M.

主および其大なる能(ちから)に頼(より)て剛健(つよく)なるべし

一 みつはものよ　よろひをきて
みぬしのちからに　つよかれかし

二 おそれをさり　かみにたよれ
もろ〳〵のわたに　かちをうべし

三 すゝみいのり　ちからをまし
くらきのつかさを　ふみくだけよ

四 みぬしにより　つひにかちて
さかゐのかむりを　いたゞくべし

五 とこしなへの　みこをあがめ
ちゝみたまともに　はめたゝへよ

第百二十　Toplady.　

信仰の善き戰ひをたゝかひ永生を取るべし

一 あやふきおはく　なやみにおふも
いのちのかてに　つよくせられて
たえずたゝかへ　耶蘇のつはもの

二 たゝかふものに　くはゝりすゝみ
あたにぞむかへ　さきだつをさの
ちからをしらで　ひきなのがれそ

三 たゆめるむねを　いさましくなし
あまつよろひを　つけてたゝかへ
しばししのばゞ　かちどきあげむ

四 なみだのかすみ　はらひぬぐひて
おそれずすゝみ　いさみたゝかへ
ことにのぞみて　ちからはますぞ

五 あまたのあたの　さまたげあるも

うちかつことは　てのうちなれば
さかえにすゝめ　耶蘇のつはもの

121 第百廿一 S. John Damascene(2). 8 of 75.

神の武具（よぐ）を以（も）て装（よそ）ふべし

一 耶蘇のものゝふ　みなたちて
じふじのみはた　ふりかざせ
すべてのわたを　ふするまで
みぬしはつねに　みちびけば

二 みちからたのみ　おのがみの
ためをおもはで　たゞかみの
さづくるよろひ　みにまとひ
みうまのさきを　まもるべし

三 しばししのびて　たゝかはゞ
のちにはきみと　もろともに
いのちのかむり　いたゞきて
よろづよまでも　さかゆべし

122

第百廿二　Wesley.　C.M.

悪しきものゝ謀略に歩まぬ罪人の途に立ぬものは福ひなり

一　われあしきものゝ　はかりごとに
みをうしなふとも　えたがふまじ

二　つみびとのあゆむ　そのみちには
たからをばうとも　すゝみゆかじ

三　たかぶれるものゝ　そのむしろは
いかにたのしとも　つらなるまじ

四　かみのみおきてを　よるもひるも
よろこびおもひて　つゝしむべし

五　めぐみのかはべに　ううるわかね
きみのうるはひに　さかえしめよ

（此外第九十より第九十三までのうたを用ふるも妨げなし）

婚姻

123 第百廿三 Sychar. 87.

神の合せ給へる者は人これを離つべからず

一 とつぎめとりをば なしそめしひの
いはひのみこゑは いまもひゞけり

二 みちゝみこみたま こゝにいまして
みつのいはひをば きかしめたまへ

三 みちゝよアダムに エバをあたへし
そのみわざのでと いまなしたまへ

四 かみとひとのさが ともにむすびし
耶蘇よこのめをを むすばせたまへ

五 耶蘇のきよききよめ まもるみたまよ
ひれふすふたりを さきはひたまへ

六 みちゝみこみたま めぐみまもりて
いくよもかはらず たもたせたまへ

看視病

124　第百廿四　Hollingside.　8 of 7.

主は汝の總ての疾をいやし給ふ

一 やまひのとこに　なやめるものよ
みぬしをあふぎ　くすりにまさる
みことばをうけ　みもたましひも
ほろぼすつみの　やまひをいやせ

二 やまひにかゝり　くるしむともよ
よしもゝとせの　よはひをふとも
よはたゞゆめの　またゝくひまぞ
しなぬいのちを　うるをばねがへ

三 やまひのために　いねがてにして
よわけをしたひ　ひるまもなげき
もだへなやめど　そのくるしみと
のちのさかえを　くらべてしのべ

埋葬（まいさう）

125 第百廿五 S. Nicholas. 6 of 7s.

今より後（のち）主に在（あり）て死（しぬ）る死人は福（さいはひ）なり

一 耶蘇にたよりて ねむるもの
わたのさゝへを まぬかれて
そのめさむれば うれひなし

二 耶蘇にたよりて 死（し）のはりを
ぬかれよろこび うたひつゝ
ねむるものこそ たのしけれ

三 耶蘇にたよりて ねむるもの
やすけくきみと まじはりて
さますみこゑを まちのぞむ

四 耶蘇にたよりて ねむるもの
そのみちからに さまされて
よろこびかみに まみゆべし

126　第百廿六　Dolomite Chant. 5 of 57.

今日汝(あんぢ)は我と偕(とも)に樂園(パラダイス)に在るべし

一
かなしみの　やみにかくれし
わがともを　おへてなげかじ
し(死)のかどに　さきだちいりし
すくひぬし　いまみちびけば

二
よ(世)のあらき　みちをふみつゝ
わがともに　ともなはれねど
つみあらぬ　きみしにませば
つみびとも　し(死)のおそれなし

三
わがともの　たまはなげきて
かりのやを　たちいでしかど
めさむれば　みぬしにまみえ
みつかひの　うたのたのしさ

四
かみまさに　みちびきまもり
わがなひし　ともをなげかじ
かみわたへ　かみよびもどし
し(死)のはりを　とりてかへせば

立教師節

127　第百廿七　Veni Creator.　I.M.

イエス氣を噓て彼らに曰けるは聖靈を受よ

一 みたまよくだりて　あまつみめぐみを
つくりたまひにし　こゝろにみたせよ

二 なゝへのたまもの　あぶらとしそゝぎ
いのちのいづみを　ひらきのましめよ

三 こゝろのやみよを　たゑせずてらして
おもてのけがれも　はぢをものぞけよ

四 そとよりおそへる　あたをばふせぎて
わがむねにやどり　やすましめたまへ

五 みつのみくらゐの　ちゝみこみたまを
ひとりのみかみと　さとらしめたまへ

六 ちゝとこのおくる　みたまみちびけば
かみのみさかゑを　やちよにうたはむ

第百廿八　Bread of Hreaven. 6 of 7.

汝の祭司(さいしら)等は義(ぎ)を衣(き)汝の聖徒(せいと)は
皆歡(よろこ)びよばふべし

一
きみよみたまを　うへよりそゝぎ
めぐみのつゆに　ひかるころもを
めされしものに　よそはせたまへ

二
みやにたちつゝ　きみにならひし
みちをかたれば　みて(手)のまもれる
はしとひとしく　なさしめたまへ

三
きみのちしはに　かひしみたみを
いつくしみつゝ　もゆるこゝろに
やさしきさとり　いだかせたまへ

四
めさましいのり　よるひるむれを
つみよりすくひ　まことにさそひ
つねにまもろを　ゐさしめたまへ

五
きみのゆだねし　わざをゝはりて
まみゆるときは　さかゐのかむり

いたゞきよゝに　かゞやかしめよ

奉堂式

129　第百廿九　Mannheim.　6 of 87.

此基礎は即ちイエス、キリストなり

一　われらのすゑたる　おやいし耶蘇に
このみやをたてゝ　ひゞのめぐみと
みくにのよろこび　たえせずもとむ

二　このみやにつどひ　みくらゐみつの
ひとりのかみをば　うたひたゝへて
そのみさかえこそ　よにあらはさめ

三　かみひゞちかより　こゝろのなげき
ひたすらのいのり　あはれみきゝて
あふるゝめぐみを　そゝぎたまへよ

四　ちゝのみことばを　つねにきかしめ
こゝろにたもたせ　よわきみたみに
あまつちまたをば　あゆませたまへ

130　第百三十　Jones.　75.

汝の大庭(おほには)にすまふ一日は千日にもまされり

一　かみのすまひの　よろこびは
よのたのしみに　まさるなり

二　みたみつどひて　いのるとき
かみもちかより　きゝたまふ

三　つきぬいのちと　なぐさめを
えめすみふみぞ　よろこばし

四　みたまめぐみの　たまものを
たる、いづみぞ　うるはしき

五　かみにちかづく　たましひを
やしなふかてぞ　ゑたはしき

六　かみのめぐみを　たゝへつゝ
みくにのうたを　ならははや

七　かみのすまひの　よろこびは
よのたのしみに　まさるなり

聖公會

131　第百三十一　Austria.　8 of 87.

シテンの山はうるはしく喜悦を
地にあまねく與ふ

一　よゝのいはがねに　かみはみしろを
かたくたてつらね　みすまひとなし
すくひのいしがき　きづきたまへば
そのやすけきをば　たれかをかさむ

二　やちよもつきせぬ　あまつみかみの
みいつくしみより　みづわきいでゝ
みたみをうるほし　すべてのうれひ
すべてのかなしみ　ながしつくすぞ

三　はかなきたのしみ　うかべるとみを
たかぶるよのひと　われをなみすも
あめなるみやこの　たみにつらなる
わがよろこびこそ　つねにさげゝれ

第百三十二　Aurelia.　8 of 76.

教會(けうくわい)は彼(かれ)の身體(からだ)にして彼は其首(かしら)なり

一
いとたかきゝみ
ちのあたひもて
にひよめとなし
かたきいはほに
あまくだりて
たみをもとめ
いつくしみて
たてたまひき

二
よろづくにより
のぞみをあはせ
ひとつのみかて
ひとりのかみに
ゑらばるれど
わざをつらね
うやまひうけ
すがりたのむ

三
さはのあらそひ
よひとのそしり
かみはたゑざる
なみだをうたに
なやみあれど
みたみをさき
なげきをきゝ
かへたまはむ

四
よにのこるたみ
ともにまじはり
よゝのやすきを
まちのぞみて
さりしたみと
かみをあふぎ

きみのきたるを　たゞぞいのる

信(しん)施(せ)

133　第百三十三　Langdale.　87.

我(われ)いかにしてその賜(たま)へるもろ〳〵の恩恵(めぐみ)を主にむくいんや

一　みめぐみにみてる　あめつちうみの
みしらしぬしには　いかにむくいむ

二　はるははなさかせ　あきはみのりを
としでとかはらぞ　ゆたけくたまふ

三　はらからのむつび　みのすこやかも
みなあまつちゝの　たまはるさちぞ

四　みこ(子)をもをしまず　よひとのつみの
なだめとくだしし　めぐみぞふかき

五 なゝ[七]へ[五]のたまもの　そゝぐみたまを
つかはをゐはれみ　いともたふとし

六 やはらぎをゐたへ　みくにのゝぞみ
ゐたふるみかみに　いかにむくいむ

七 わがねりでめなる　たからはくさう
みにそふこがねも　やがてぞきゆる

八 かみをたゝへつゝ　そなふるものは
みくらのたくはへ　とてよのとみぞ

九 いまさゝげまつる　くつべきものも
みよのみつぎとし　うけいれたまへ

十 みいつくしみには　むくいゐざれど
みもたましひをも　よろこびさゝぐ

童蒙

134 第百三十四 Happy Land. 7.6.7.6.7.7.7.6.

我儕の國は天にあり

一 あまつみくには　たのしきぞ
きよきやからは　ひのごとく
かゞやきつどひ　すくひぬしなる
耶蘇のいさをゝ　たゝふれは

二 うたがひまよひ　ためらはで
たのしきくにへ　おもむけよ
つみうさきえて　みぬしとゝもに
うくるさかえは　かぎりなし

三 ちゝのみそばに　ちかよりて
えたしみむつび　はてなきぞ
かみのよつぎよ　ちゝのみくにを
つぐをのぞみて　はげむべし

135　第百三十五　St. Edmund.　7575775.

誰(たれ)か小さき事(こと)の日を蔑視(いやし)むる者ぞ

一　いはのこけの　したつゆは
おをうなばらの　みなもとぞ
はまのまさごは　こまやかなれど
つもりつもれば　をかとなる

二　うつるひかげの　すぎゆくは
ひきてはなてる　やのごとし
わづかのひまと　おもひをりしも
すぐればやがて　としとなる

三　みよやわれらの　あやまちを
ふたばのうちに　つまざれは
いばらのごとく　つみ(罪)いやしげり
きよきみたねを　ふさぐべし

四　いさゝ、しわざと　ことばにて
みいつくしみを　かさねなば
さかえはつひに　よにみちわたり
たのしきそのと　なりぬべし

第百三十六　Pastor Bonus.　8 of 75.

汝は見たまふ神なり

一
あめにまします　ちゝかみは
わらべのいのり　きかるゝや
かみはよろこび　きゝたまひ
こたへのしるし　さちおはし

二
あめにまします　ちゝかみは
あしきしわざを　みらるゝや
よるひるかみは　よしあしの
わざをもらさぞ　みたまふぞ

三
あめにまします　ちゝかみは
いつはることを　しらるゝや
かみはかくれし　ひめごとも
あらはにしりて　むくゆべし

四
あめにまします　ちゝかみは
われらをめぐみ　まもれるや
かみはすべての　よきものを
そなへてつねに　めぐむなり

137 第百卅七 S. John Damascene(2). 8 of 75.

此小子の一人の亡ぶるは天に在す
爾曹が父の尊旨に非ぞ

一 わらべのちゝは　あめにあり
このよのちゝに　いやまさり
ひつきはうつり　かはるとも
そのいつくしみ　かはらぬぞ

二 わらべのすまひ　あめにあり
をさむるきみは　耶蘇なれば
よのすまひより　いとやすく
そのさきはひも　かぎりなし

三 わらべのうたは　あめにあり
すくひをうけて　さゝぐれば
あまみつかひの　うたよりも
たのしくたねぞ　うたふなり

四 わらべのかむり　あめにあり
耶蘇にみならひ　つかへなば
みもとにいたり　かゞやける

五
さかえのかむり　いたゞくぞ
しろきころもゝ　あめにあり
ゆかしきこと(琴)も　しゅろ(棕櫚)のはも
みぬしそなへて　まちませば
わらべもいたり　うけよかし

138　第百三十八　Jesus loves me. 7777.5556.

主は我儕(われら)の爲(ため)に生(いのち)を捐(すて)たまへり
是(より)に由て愛(あい)といふ事(こと)を知(しり)たり

一
つよきみぬしの　よわきこのみを
めでたまへるは　みふみにしるし
(をりかへし)(耶蘇きみの　みめぐみと
いつくしみ　たぐひぞなき

二
わがためにしし　つみをもはらひ
あまつみかどを　ひらきたまへり
(をりかへし)

三
よにあるわれを　つねにともなひ
つひにみくにゝ　すまはせたまふ
(をりかへし)

第百三十九　Cassell.　8 of 7.

其名をイエスと名くべし

一　ちゝのみむねを　わらはすきみの
みなにうへこす　なはよにわらず
（をりかへし）あめつちになき　たふときみなを
かみのみまへに　かしこみたゝふ

二　かみのひとりご　よひとのつみを
すくひたまへば　耶蘇となづけぬ
（をりかへし）

三　じふじにみなを　しるされたるは
みいつくしみの　ふかきしるしぞ
（をりかへし）

四　いまちゝがみの　みぎにいませば
あらゆるものゝ　ひざかゞむべし
（をりかへし）

第百四十 Banner. PNI.

汝朝（あした）に種（たね）を播（ま）け夕（ゆふべ）に手（て）を歇（やす）むるなかれ

一
はるのあさけ
あきのゆふべ
いそしみつゝ
たりほとなる

なつのまひる
ふゆのひも
まけるたねの
あきをまたん

〃ひこそこめ
そのたりほ

（をりかへし）
かりいる、
いさよろこべ

二
みそらかすむ
ふきすさめる
いとはでまく
かりいるべき

のどけきひも
あらしをも
たねみのりて
あきをまたん

（をりかへし）

三
うきつらさも
きみがために
つひにみのる
きみはめでゝ

みにいとはで
たねをまけ
みちたりほを
みそなはさん

（をりかへし）

141　第百四十一　Children's Litany. 7s.

彼は女より生れ且律法の下に服したり

一　ちゝこみたまの　ひとりのかみよ
　　おまつみやより　かへりみたまへ

二　をとめにやどり　わらべとなりし
　　かみなる耶蘇よ　わはれみたまへ

三　ひつじのもりの　ふしてをがみし
　　かミなる耶蘇よ　わはれみたまへ

四　はかせたからを　さゝげわがめし
　　かみなる耶蘇よ　わはれみたまへ

五　シメオン、アナの　よろこびみたる
　　かみなる耶蘇よ　わはれみたまへ

六　ヘロデのつるぎ　のがれかくれし

かみなる耶蘇よ　あはれみたまへ
七 ちゝのみむねを　みやにてとひし
かみなる耶蘇よ　あはれみたまへ

142 第百四十二 Children's Litany. 7s.

惡(あく)より救(すく)ひ出(いだ)したまへ

一 ねたみたかぶり　いつはりよりも
かみなる耶蘇よ　われらをすくへ

二 おこたりたしみ　なさけなきより
かみなる耶蘇よ　われらをすくへ

三 かみにそむける　おのがまゝより
かみなる耶蘇よ　われらをすくへ

四 いのりとゐやを　わするゝよりも
かみなる耶蘇よ　われらをすくへ

143 第百四十三 Children's Litany. 7s.

我を憶ひたまへ

一 をさなきときに　わびしきことを
おぼゑたまひし　きみ耶蘇すくへ

二 たゞしきをなし　なやみのきはみ
志のびたまひし　きみ耶蘇すくへ

三 いばらをかむり　いのちのちしは
ながしたまひし　きみ耶蘇すくへ

四 志にかちたまひ　わめにのぼりて
ちからにとめる　きみ耶蘇すくへ

144 第百四十四 Eudoxia. 75.

汝臥とき怖る、所おらぞ臥とき
は酣く睡らん

一 たそがれのかげ　そらおはひ

ひるのをはりを　ゑめしけり

二 くもまはのかに　はしもてり
はなとりけもの　ねむりそむ

三 かみよめぐみて　うまいをば
つかれしものに　さづけませ

四 ゆめにわらべを　よろこばせ
うみのふなびと　まもりませ

五 たえぬなやみを　なぐさめて
あしきてだてを　とゞめませ

六 わがとこのうへ　みつかひの
つばさのかげに　おはひませ

七 よあけきたらば　きよらかに
けがれをはらひ　さましてよ

八 ちゝこみたまの　わがかみに
よゝかぎりなく　さかえあれ

守(しゅ)護(ご)

145　第百四十五　University College.　75.

雲(くも)をおのれの車(くるま)となし風の翼(つばさ)に乗(の)りあるき給ふ

一　あらなみをふみ　あらしにのりて
かみはくしきを　あらはしたまふ

二　みたにのそこに　かゞやくたから
たくはへたまふ　かみのかしこさ

三　くもきりかさね　ひをへだつとも
そのみひかりは　つねにかはらぞ

四　おこりかこめる　よものくろくも
つひにめぐみの　あめをぞふらす

五　かみのみいづを　ひたすらあふぎ
あさきむねにて　うたがふなかれ

146　第百四十六　Imayō.　8 of 75.

神はヅァンの野(の)にて妙(た)へなる事(こと)

をなしたまへり

一　よもにくもきり　おはひぬる
やどりもわらぬ　われのをば
さまよひあゆむ　よわきみを
たもたせたまへ　いけるかみ

二　あまつみかてを　ふらせつゝ
いけるいづみを　はりひらき
うゑかわきたる　このみをば
めぐませたまへ　あまつかみ

三　むかしあ[illegible]にし　ひ(火)やく(雲)もの
はしらをいまも　あらはして
わがゆくみちを　てらしつゝ
みちびきたまへ　おはみかみ

四　ヨルダムがはに　いたるとき
こゝろのおそれ　たひらげて
みくにのきしに　つゝがなく
わたらせたまへ　わがみかみ

147　第百四十七　Cambridge.　75.

主はわが牧者(ぼくしゃ)なりわれ乏(とも)しきことあらじ

一　わがかひぬしは　かみなれば
　　ともしきことの　うれひなし

二　きよきかはべに　みちびきて
　　くさのしげみに　いこはしむ

三　よわきこゝろを　つよめつゝ
　　たゞしきみちを　あゆましむ

四　かみともなはゞ　し(死)のかげの
　　たにをあゆむも　おそれなし

五　たびなすうちは　みめぐみの
　　まもりはいつも　みにぞそふ

六　あまつみやこに　いらしめて
　　よゝみすまひに　すまはしむ

第百四十八　Lübeck.　7s.

主よ汝全地(ぜんち)のうへにまし〳〵て
至高(いと)し

一　あまつみかみの　すべをさむるを
　　はなれこじまも　しりてよろこべ

二　くもとくらきは　めぐりにあれど
　　なほきさばきは　みくらのもとゐ

三　もゆるほのほは　みまへにすゝみ
　　よものあたをば　やきほろぼすぞ.

四　たゞしきひとを　たねせぞまもり
　　あたよりすくひ　よろこばしむぞ

五　あまつみかみを　いつくしむたみ
　　つみをばにくみ　たよりたゝへよ

149　第百四十九　Buckland.　7s.

神は我儕(われら)の避所(さけどころ)また力(ちから)なり

一　なやめるときに
　　われをさくべき
　　ヱホバのかみは
　　かたきやぐらぞ

二　やまをかゆるぎ
　　よしうつるとも
　　うみのもなかに
　　いかでおそれむ

三　かみのみやこを
　　すまふみたみを
　　うるほすかはは
　　よろこばしむぞ

四　もろびとさわぎ
　　かみとくきたり
　　おそひかこむも
　　しりぞけたまふ

五　ヤコブのかみは
　　つねにいまして
　　われらとゝもに
　　かたきやぐらぞ

150 第百五十 S. Edmund(2). 8 of 7.

神こそは我磐（いは）わが救（すく）ひなれ

一 かみのまことは いはほのごとく
あらきなみかぜ うてどうごかじ
（をりかへし）かみのめぐみと つきぬまことを
すゑのよまでも ほめよたゝへよ

二 かみのめぐみは うみべのまさご
かぞへしるべき ときこそなけれ
（をりかへし）

三 よわきわれらも こゝろをつくし
かみにすがらば みちからたまふ
（をりかへし）

四 つみのおもにを かみはめぐみて
おろしたまへば いともやすけし
（をりかへし）

第百五十一　Nogeyama. 6 of 7.

我儕(われら)稱(とな)へられて神の子たることを得(う)

一　あめつちうみの　みしらしぬしの
たふときかみは　わがちゝなるを
いとかしこくも　たゞぞよろこぶ

二　あまつみちゝよ　われのいのりと
たゝへのことば　つたなくあれど
あはれみきゝて　うけさせたまへ

三　あまつみちゝよ　こゝろとことゝ
おこなふわざも　つゆおこたらで
きよきみむねに　かなはせたまへ

四　あまつみちゝよ　このよのつきひ
ことなくをへて　みくにゝいたり
よきことなるを　かねてねがふぞ

第百五十二　Ibstone.　6s.

我に聖旨を行ふことを敎へ給へ

一　やみぢなるも　てをたづさへ
ちゝのみちを　左めしたまへ

二　やまこゆるも　たにわゆむも
たゞみちゝの　むねにゆだね

三　わがもとむる　ちゝのくにへ
いたるみちを　ゝらびたまへ

四　わがうくべき　みさかづきに
みむねのごと　みたせたまへ

五　とみとさかゝ　うきとつらき
わがことみな　さだめたまへ

六　いさゝめにも　われゝらばで
たゞみちゝを　わふぎまつる

153 第百五十三 S. Aelred. 8885.

イエス颶(かぜ)を斥(いまし)め且海(うみ)に靜(しづ)まりて
穩(おだやか)になれと曰(い)へり

一 ふねいとあやふき　はげしきあらしに
耶蘇のみ(而己)志づかに　いねませり

二 ふなこはさけびて　たすけをねがへば
なみよ志づまれと　のたまへり

三 みことのりにより　さかまきあらけし
なみかぜねむりに　とくつきぬ

四 よのうきなみぢの　あらだつときにも
耶蘇よあはれみて　志づめませ

154 第百五十四 Cooper. 6 of 7.

我が歩(あゆ)むべき道(みち)を志らせ賜(たま)へ

一　いつくしみある　あまつひかりよ
やみぢにまよひ　すみかをとはく
はなるゝわれを　みちびきたまへ

二　きみわがみちを　まもりたまへば
とはきたびぢを　みるをねがはじ
たゞひとあゆみ　のみにてたれり

三　むかしみぬしを　たのみまつらで
おのがこゝろの　やみにひかれし
よろづのことを　とがめたまふな

四　ながくわがみを　まもりたまひし
みぬしをたのみ　しのゝめまでも
のやまもかはも　おそれじあゆむ

五　さきにつきにし　したしきともの
ゑめるかはをば　うちみるひまで
みちびきたまへ　あまつみひかり

拯救（すくひ）

155　第百五十五　Dedication.　8 of 75.

今苦難（くるしみ）を受（う）くれども後（のち）には闇（やみ）なかるべし

一
つみのくもりに　みちさへも
ふみわけがたき　よのなかを
おもにおひつゝ　たびゞとの
おぼつかなくも　たどりゆく

二
おつればきゆる　しらつゆを
いのちとたのむ　うつせみの
むなしきからに　なるまでも
つみのちまたに　さまよへり

三
うきよのさまの　はかなきを
あはれみたまふ　あまつかみ
ひとりのみこ（子）を　よにくだす
ふかきめぐみぞ　はかりなき

四 きよきみたまの　たすけにて
むねのうきくも　はれわたり
すくひのぬしの　みくにをば
あふぎみるこそ　うれしけれ

156 第百五十六 Day by day. 87.

我彼等(われら)の不義(ふぎ)を憫(あは)れむ

一 われらはかみをば　はなれしときも
かみはあはれみて　つねにまもれり

二 われらはみむねに　さかひしときも
かみはいつくしみ　みこ(子)をくだせり

三 われらはあざけり　みな(名)をけがすも
かみはみすくひの　そなへをなせり

四 われらはむなしく　つきひ(月日)をふるも
かみは耶蘇きみの　こゑをきかせり

五 かくいつくしみを　あらはすかみに
みもたましひをも　さゝげまつらむ

157 第百五十七 Barnby. 8 of 7 5.

其民(たみ)を罪(つみ)より救(すく)はん

一 つみのけがれに　おほほれて
みちふみまよふ　よのひとを
あはれむかみは　みこ(子)をさへ
くだしてみちを　しめしけり

二 みをひくゝして　よのなかに
うまれたまひし　すくひぬし
すくひのかどを　うちひらき
ひとをみちびき　いれたまふ

三 じふじのうへに　ち(血)をながし
そのちしほにて　よのつみの
けがれをわらひ　もろびとに
きよきこゝろを　さづけしむ

四 すくひのぬしの　みかげにて
かみのめぐみを　いまぞしる

あなたふとしや　もろともに
かみのみくにへ　す、むべし

158　第百五十八　Ratisbon. 6 of 7.

主よ今何をか待（また）ん我望（わがのぞみ）は汝にあり

一
つみゆゑわれは　しにしづみしを
すくひのぬしは　そのしにかはり
いのちのみとを　ひらきたまへり

二
つみゆゑわれは　けがれおはきを
すくひのぬしは　そのけがれをば
たふときちにて　あらひたまへり

三
つみゆゑわれは　うれひおはきを
すくひのぬしは　そのうれひより
たすけいだして　なぐさめたまふ

四
つみゆゑわれは　さまよひたるを
すくひのぬしは　あはれみたすけ
かみのみくにへ　ともなひたまふ

159　第百五十九.　Imayō.　8 of 75.

今は拯救(すくひ)の日なり

一 くらきやみよも　なごりなく
はれわたりゆく　あさぼらけ
あをひとぐさの　まごゝろに
くゆればつみも　きえぬめり

二 かみのめぐみは　むらさめの
つゆのあさひに　てらされて
かゞやくごとく　われ〳〵に
げにたふとくぞ　みえにける

三 いかにけがれし　つみびとも
すくひのつゆを　そゝがれて
あかるきみちを　あゆみなば
いさぎよきみと　なりぬべし

160　第百六十.　Hashimoto.　57577.

幽暗(くらき)にをる民は大(おほい)なる光(ひかり)を見(み)し

一 みめぐみの　ひかりはあめの
みかどより　いでゝあまねく
よ(世)をてらせる

二 ゑのかげの　おはへるたに(谷)も
みめぐみの　ひかりをうけて
みな(名)をこそよべ

三 きみのこゑ　つかれしみゝに
きこゆなり　つみのおもにを
きたりおろせと

四 いまこのひ(日)　みこゑきかずば
すゑのひ(日)に　あまつよつぎと
いかでなるべき

五 きみのこゑ　よろこびきゝて
みかどより　いづるひかりを
たづねのぼらむ

161 第百六十一

Adcock. 7s.

我に従（しだが）ふ者は暗（くら）き中を行（あるか）ず生（いのち）の光（ひかり）を得るなり

一 耶蘇はよひとの　こゝろのやみを
てらすまことの　みひかりとしれ

二 みぬしのひかり　つねにかゞやき
したがふものに　くらきことなし

三 みちふみまよふ　やみぢのそらも
ひかりてらせば　いかでおそれむ

四 よのうきくもと　つみにおははれ
ひかりうけずば　いのちはわらじ

五 みくにへゆかば　くもみなはれて
きみのひかりを　よゝにみるべし

爾曹恩に由て救を得

一
めぐみにとめる まことのかみは
つみをゝかして しにたるわれを
つねにみすてぞ あはれみたまふ

二
みこ[子]におはせて われをいかしめ
あまつみくにゝ をらしめたまふ
みいつくしみを いかにたゝへむ

三
しわざによらで たゞみめぐみの
すくひをたのみ はこることなく
かみのめぐみを たえずよろこぶ

163　第百六十三　Batty.　87.

我爾曹を捨(すて)て孤子(みなしご)とせぞ再(また)なんぢらに來(きた)らん

一 よのわくるときも　ひくるゝときも
耶蘇ともなひなば　おそれはわらじ

二 このよをはなれて　さりゆくときも
耶蘇ともなひなば　みちはやすきぞ

三 かみのみさばきを　よはをのゝけど
耶蘇にすがるみは　おそれずのぞむ

四 みくらのまへにて　わがきみ耶蘇に
まみゆるさちこそ　いとたのしけれ

164　第百六十四　S. Matthew.　DCM.

罪と汚穢を清むる一の泉開くべし

一
イマヌエルよりし　ながれいづる
ちしはのいづみに　つみをあらへ
じうじにかゝりし　ぬすびとすら
このいづみをみて　よろこびたり

二
われらもいづみを　ふかくゝぐり
くれなゐのつみを　わらはるべし
かみのこひつじの　ながせるちの
きよむるちからは　かぎりわらじ

三
かみのたみらみな　きよまるまで
ちしはのながれは　たゑざるべし
よをさりてのちも　いやけだかき
しらべをかなでゝ　はめまつらむ

165 第百六十五 Holy Voices. 87.

我は途(みち)なり眞(まこと)なり生命(いのち)なり

一 つみあるわれをば　ちゝのみもとへ
ゆかしむるみちは　たゞ耶蘇のみぞ

二 まよへるこゝろの　くらきやみぢを
てらせるまことは　たゞ耶蘇のみぞ

三 しぬべきよにすみ　しにたるわれを
いかせるいのちは　たゞ耶蘇のみぞ

四 まこと、いのちと　みちなる耶蘇を
しるべきめぐみを　われはねがふぞ

百六十六　Holly.　L.M.

我に就(きた)るものは我必(かなら)ず之を棄(すて)ぞ

一　ちしはをながして　たのみなきわれを
　　まねかせたまひし　耶蘇のもとへゆく

二　そみたるけがれを　わらふにすべなく
　　きよめをねがひて　耶蘇のもとへゆく

三　うたがひのなみと　おそれのあらしに
　　たゞよひながらも　耶蘇のもとへゆく

四　おまたのやまひに　なやまさる、みの
　　いやしをもとめて　耶蘇のもとへゆく

五　われをもゆるして　みたみにつらぬる
　　ちかひをたのみて　耶蘇のもとへゆく

六　かくいつくしみて　みちびきたまへば
　　わがみをばわすれ　耶蘇のもとへゆく

167 第百六十七 Vox Dilecti. DCM.

人もし渇かば我に來りて飲め

一
とくきてやすめよ　われのむねに
つかれしかしらを　よせやすめと
みこゝろにかなひ　耶蘇のもとに
やどりをもとめて　いこひをえし

二
われてそあたふれ　いのちのみづ
かわけるもろびと　つどひのめと
すくひのいづみに　いまいかされ
つきせぬいのちを　たもちぞうる

三
あさひのむらくも　ちらせるごと
くらきよのなかを　われてらすと
耶蘇のみひかりに　いまてらされ
まよはずみくにへ　あゆみぞうる

168 第百六十八 Redhead 76. 6 of 7.

その磐（いは）は卽（すなは）ちキリストなり

一 いはなる耶蘇よ
さかれしわきの
つみとがあらひ
わがみをかこみ
ち（血）とみづをもて
みをきよめてよ

二 こゝろはげめど
た（絶）えぬなみだも
あがなひぬしを
おきてにた（堪）へず
つみあらはねば
あふぐばかりぞ

三 じふじのほかに
まづしきわれを
みすくひなくば
たのむかげなき
あはれみたまへ
よゝにしぬべし

四 よにあるうちも
しらぬみくにの
いはなる耶蘇よ
よをさるときも
さばきのをりも
わがみをかこめ

169　第百六十九　Hollingside.　8 of 7.

願くは我を瞳のごとくに守り汝の翼の蔭にかくし給へ

一　わがたましひを　すくふみぬしよ
よのなみかぜの　はげしきときに
たゞよひまよふ　このみをまもり
あまつみなとへ　みちびきたまへ

二　あがなひぬしの　ほかにすくひは
なしとさとりて　たゞ耶蘇のみに
たよるこのみを　いつもはなたず
つばさのかげに　おほはせたまへ

三　すくひのいづみ　ひらきしきみよ
わがみのつみを　けがれをきよめ
いのちあたふる　そのましみづを
かわけるわれに　のましめたまへ

第百七十　Stephanos.　8585.

凡て勞れたる者また重きを負へる者は我に來れ

一　つかる、ものみな　きたりきけ
いこひをあたふる　みこゑあり

二　いかなるしるしに　しらる、や
みてあしあばらの　きずなるぞ

三　おほきみのかむり　いたゞくや
そのみかむりこそ　いばらなれ

四　したがふむくいは　いかなるや
なげきなやむとも　つとむべし

五　そのうきしのべる　すゑいかに
このよにかちゐて　あまりあり

六　みたすけをこはゞ　うけうるや
よのはつるまでも　いなまぬぞ

七　すゑまでめぐみを　さづくるや
かちしみたみみな　あかしなり

171　第百七十一　Hermas.　PM.

我を洗ひたまへさらば我雪よりも白からん

一 耶蘇よこゝろにやどりて
われをみやとなしたまへ
けがれにそみしこのみを
ゆきよりしろくなしてよ
（をりかへし）わがつみをあらひて
ゆきよりしろくなしてよ

二 われらのため耶蘇きみは
ちしほをながしたまへば
いまよりきみにまかせて
みもたまもいざさゝげむ
（をりかへし）

三 われらはいまひたすらに
みまへにふしてねがへば
つみにけがれしこゝろを
いまあらたになしたまへ
（をりかへし）

四 ふかきめぐみのちしはに
きよめらるゝぞうれしき
いのりにこたふるかみよ
みな(名)をあがめさせたまへ

(をりかへし)

172 第百七十二 Koriyama. 57577.

我儕(われら)神を愛(あい)するは彼まづ我儕を
愛するに因(よ)てなり

一 わがきみを　めづるはきねぬ
ひ(火)をおそれ　すくひをねがふ
ためにてはなし

二 くぎやりの　はぢとくるしみ
うけつゝも　きみの志にしは
わがためと志る

三 わがきみを　めづるはきみの
われをめで　あはれむことの
めぐみおもひて

173 第百七十三 Winchester Old. C.M.

汝は人の子輩(とも)にまさりて美(うる)はし

一 わがすくひぬしを おもひみれば
みかはもみこゑも いとうるはし

二 よにたぐひもなき すくひぬしを
あまつみつかひも はめまつれり

三 あめよりのぞみて よをあはれみ
くだりてひとをば すくひませり

四 いかでわするべき かくめぐめる
みぬしのみかはを ゑたふことを

174 第百七十四 Pentecost. L.M.

我(われ)と我道(わがことば)を恥(はづ)る者は人の子も亦(また)

之を恥(はづ)べし

一　わまつみつかひの　たゑせでたゝふる
さかゑのみぬしを　ひとははづべきや

二　わさぼらけよもに　ひかりをはなてる
ひのでとかゞやく　耶蘇をはづべきや

三　つみもかなしみも　わがみをかこめば
すくひをあたふる　きみをはづべきや

四　じふじのなだめを　とげまししきみを
はづるこゝろなく　はてらしめたまへ

五　つひにみさかゑを　わらはしたまはゞ
みぬしよわれをば　はぢたまふなかれ

175 第百七十五　Ruth.　8 of 75.

是すべての人をして父を敬ふ如く子をも敬はしめんが爲なり

一 いきとしいける　ものはみな
さかえのきみの　耶蘇のなを
ひれふしをがみ　たゝふべし
これちゝがみの　みむねなり

二 よのはじまりに　ことばなる
きみのみこゑを　きゝまもり
あめつちうみも　みつかひの
きよきやからも　つくられぬ

三 あまつさかえを　しばしすて
けがれをしのび　よにくだり
よのつみびとに　あがめられ
うけしみなこそ　たふとけれ

四

よひとをすくふ
しみなくまもり
みくにゝのぼり
みくらのまへに
このみな（名）を
し（死）にもかち
ちゝがみの
わらはせり

五

かみよりいでし
すくひのぬしと
たふとみあがめ
し（死）をもいとはぬ
かみにして
なりませば
いつくしみ
したがへよ

六

けがれしこゝろ
きみのいませる
あやふきときに
いのりもとめて
うちきよめ
みやとなし
みちからを
わたにかて

七

かみのみこ（子）なる
よのきみとなり
あまみつかひを
さかゑをまとひ
わがきみは
すみやかに
ともなひて
かへるべし

祈(き)禱(たう)

176 第百七十六 Salzburg. 6 of 7.

我わが磐(いは)なる神にいはん何(なん)ぞわれを忘(わす)れたまひしや

一 わがたましひの　かみのみかはを
したひまつるは　おはるゝしかの
たにまのみづを　ゑたふがごとし

二 なが(汝)かみいまは　いづくにあると
よひとなじれば　ひねもす(終日)われは
あふるゝなみだ　つねのかてとす

三 などわがたまよ　うきにしづみて
めぐみをあふぎ　ひたすらかみを
たよりのぞみて　はめたゝへぬぞ

四 かみをばたのめ　つひにわれらに
ゑがほをたまひ　たすけをくだし

た、ふるときを　あらはすべきぞ

177 第百七十七　Ratisbon. 6 of 7.

我神わが魂(たま)は我裏(うち)にうなたる

一　われをみぬしの　きよきみやまと
おましどころに　みちびくひかり
はなたせたまへ　あまつみかみよ

二　こと(琴)ならしつゝ　まつりのゆかに
すゝみのぼりて　みちしたのしみ
あたふるかみを　はめたゝふべし

三　などわがたまよ　うきにしづみて
めぐみをあふぎ　ひたすらかみを
たよりのぞみて　はめたゝへぬぞ

四　かみをばたのめ　つひにわれらに
ゑがはをたまひ　たすけをくだし
たゝふるときを　あらはすべきぞ

178 第百七十八　Noel.　DCM.

祈を聽たまふものよ諸人こぞりて汝に來ん

一 いのりはくちより　よしいでぬも
まことあるたまの　ねぎごとなり
いのりはひそめる　むねのうちに
かくれしほのほの　もえたつなり

二 いのりはをさなき　くちびるにも
たやすくいひうる　ことのはなり
いのりはみくらの　まへにのぼり
ゆかしくきこゆる　たゝへごとぞ

三 いのりはくいたる　つみびとらの
まよひしみちより　かへるこゑぞ
かみのみつかひは　これをきゝて
よろこびのうたに　ことをあはす

四 いのりはみたみの　いのちのいき
あまつみさとより　かよふかぜぞ

このよをさるとき　あまつくにの
みとびらをひらく　あひことばぞ

179　第百七十九　Barnby in E♭ DLM.

義者の篤き祈禱は力あるものなり

一　たのしきいのりの　ときよこのときは
なやみあるよゝり　われをよびいだし
ちゝのおはまへに　なべてのもとめを
たづさへいたりて　つぶさにぞつぐる

二　たのしきいのりの　ときよこのときは
さまよひいでたる　わがたまをすくひ
あやふきみちより　しば〱かへして
いざなへるものゝ　わなをのがれしむ

三　たのしきいのりの　ときよこのときは
そびゆるピスガの　やまのたかねより
ふるさとながめて　のぼりゆくひまで
なぐさめをあたへ　われをよろこばす

180　第百八十　Old Hundred.　L.M.

なんぢには暗(くら)きも光(ひかり)も異(こと)なる事なし

一　ひるのでとよるも　みまへにかゞやき
ひかりもくらきも　あらはにぞみゆる

二　みぬしを忘たへる　わがむねをさぐり
よこしまのゝぞみ　とりはなちたまへ

三　けがれをきよめて　つみとがをはらひ
耶蘇のじふじかを　ほこらしめたまへ

四　やみにさまよはゞ　われをともなひて
すべてのおそれを　なからしめたまへ

五　みちからにすがり　みあとをおひつゝ
つかれぞみやまに　のぼらしめたまへ

181　第百八十一　Sullivan in G.　8 of 75.

我汝に會(あ)ひ贖罪所(しよくざいしよ)の上より汝に語(かた)らん

一

うきよのなだの　あらなみに
たゞよはさるゝ　わがふねを
よするみなとは　みめぐみの
みくらのもとに　ゐるぞかし

二

かみにつくもの　いくちさと
したしきともと　へだつとも
こゝろをあはせ　みめぐみの
みくらのもとに　まじはるぞ

三

あたのおそひと　いざなひに
せめらるゝとき　をりにあふ
たすけをこふは　いづこぞや
たゞみめぐみの　みくらのみ

四

よのことすべて　かへりみず
わしのくもゐに　ひ（沖）ひるでと
たゞひとすぢに　いのるとき
さかねみくらを　おほふなり

182

第百八十二　Deerhurst.　8 of 87.

神に近け然らば神汝等に近き給はん

一
みちゝにちかよる　みちをしたへば
なやめるこのみを　あまつみそらに
あぐるはじふじの　はしらなりとも
ちかづくことをば　よろこびねがふ

二
いづこをやどりと　さだめなきみの
たびぢにゆきくれ　いしをまくらに
いねたるヤコブと　ともになやむも
ちかづくことをば　ひたすらねがふ

三
ちゝのさだめにし　くるしきみちを
みくにへおもむく　かけはしとなし
うさをみつかひの　まねくこゑとし
ちかづくことをば　たゆまずねがふ

四
めさめしときにも　かみのひかりに
こゝろをてらされ　なやみのいしを

まつりのゆかとし　はめつたゝへつ
ちかづくことをば　ゐさしめたまへ

183　第百八十三　Rosefield.　6 of 7.

我儕己に由て自ら何事をも思ひ得るに非ず

一　さとりとちから　あたふるかみよ
いとおろかしく　かよわきわれに
かみのちからと　さとりをたまへ

二　われよにあれど　かみのこなれば
このよのことに　おろかなりとも
ちゝのことには　さとからしめよ

三　なやめるときも　よろこぶときも
ひとしくちゝの　めぐみをおもひ
みいつくしみを　いかでわすれむ

四　このよのひとは　うとみねたみて
うからやからも　われをすつとも
あまつみちゝは　つねにはなれじ

184 第百八十四 S. Bees. 7s.

心の貧しき者は福なり

一 かみまづしさを こゝろにさづけ
あまつみくにの たからをたまへ

二 つみをかなしむ こゝろをあたへ
そのなぐさめを みたしめたまへ

三 やさしきこゝろ ひゞたもたしめ
よをつぐことを ゐさしめたまへ

四 たゞしきことを ひゞしたはしめ
うゑかわくみを あかしめたまへ

五 ひとをあはれむ こゝろをさづけ
かみのあはれみ うけさせたまへ

六 いといさぎよき こゝろをさづけ
かみにまみゆる めぐみをたまへ

七　やはらぐことを　ひゞもとめしめ
みこのとなへに　かなはせたまへ

185　第百八十五　S. Agnes.　CM.

ダビデの裔主よ我儕を憫み給へ

一　ダビデのすゑなる　みぬし耶蘇よ
われをあはれみて　たすけたまへ

二　よびたのむこゑに　みゝをよせて
まづしきかたゐを　めぐみたまへ

三　われはいぬよりも　いやしけれど
みかてのくづだに　あたへたまへ

四　サタナにせめられ　めしひとなる
わがたましひをば　いやしたまへ

五　このみをみすぐし　とほりまさで
みそばにまねきて　すくひたまへ

186 第百八十六 Even me. 87876.

是すなはち福祉(さいはひ)の雨(あめ)なるべし

一 かみよわれはいま めぐみのあめの
あまねくゝだれる おとをきくなり
わがうへにも くだしたまへ

二 かわけるつちさへ みなうるはへり
たゞひとしづくの めぐみのあめを
わがうへにも そゝぎたまへ

三 めぐみゆたかなる われらのちゝよ
われをみすぐして よそになゆきそ
わがうへにも めぐみたまへ

四 いつくしみふかき すくひのぬしよ
わがたましひにも きみをしたはせ
いつくしみに をらせたまへ

五 ちからのたへなる みたまのかみよ
くらめるこゝろの まなこをひらき

そのひかりを　　あふがしめよ

187　第百八十七　Quam Dilecta.　5757.

懼（おそ）る、勿（なか）れ我汝と共（とも）にあり

一　耶蘇なくば　　われらいかでか
　　ときのまも　　やすらかならむ

二　あゝ耶蘇よ　　はやくきたりて
　　われ〳〵と　　ともにいませよ

三　ときのまも　　みをばはなれぞ
　　もろ〳〵の　　あしきをはらへ

四　もろ〳〵の　　まどひをのぞき
　　みこゝろを　　をしへたまへよ

五　われらをば　　かみのみたみの
　　むれにいれ　　まもりたまへや
　　よのすくひぬし

188　第百八十八　S. Constantine.　75.

我柔和(にうわ)にして謙遜(へりくだ)る者(もの)なり

一　あはれみふかき　かみのみこ(子)
いのりのこゑを　きゝたまへ

二　とがをゆるして　みにまとふ
つみのきづなを　ときたまへ

三　きよきのぞみを　たもたせて
あまつみくにへ　ひきたまへ

四　このやみぢより　みひかりへ
いざなふみちと　なりたまへ

五　あはれみふかき　かみのみこ(子)
いのりのこゑを　きゝたまへ

讃美(さんび)

189 第百八十九 Vienna. 7s.

その憐憫(あはれみ)はとこしへに絶(たゆ)る事なければなり

一 あまつみかみを わがめたゝへよ
そのあはれみは よゝにたえぬぞ

二 ひとりをさむる かみをたゝへよ
そのあはれみは よゝにたえぬぞ

三 なやみをおもふ かみをたゝへよ
そのあはれみは よゝにたえぬぞ

四 あたよりすくふ かみをたゝへよ
そのあはれみは よゝにたえぬぞ

五 かてをたまへる かみをたゝへよ
そのあはれみは よゝにたえぬぞ

六 みめぐみふかき かみをたゝへよ
そのあはれみは よゝにたえぬぞ

190　第百九十　Langdale.　87.

天國は卽ち其人の有なればなり

一　こゝろのとみなく　まづしきものよ
　　みくにのたからを　なが(汝)ものとしれ

二　かなしむともがら　しばししのべよ
　　なぐさめらるべき　ときこそあらめ

三　なごやかなるもの　まちてあふげよ
　　よろづのくにをば　つぐひぞちかき

四　たゞしきをしたひ　うゑかわくもの
　　きみのいさをにて　あくことをえよ

五　あはれむこゝろを　いだけるものよ
　　かみのあはれみを　たのみよろこべ

六　こゝろきよきもの　きよきにすゝめ
　　みかみにまみゆる　さちぞゝなはる

七　むつびをもとむる(子)　ものよたのしめ
　　かみのみこたちと　となへらるれば

八 よきわざをつくし　せめらる、もの
みくにのたのしみ　つぐをのぞめよ

191　第百九十一　Culbach.　7s.

彼時には晨星(あけのぼし)あひともに歌(うた)ひ神の子等皆歡(よろこ)びて呼(よば)はりぬ

一 かみあめつちを　すゑましゝひ(日)に
あけぼのゝこ(子)の　たゝへきこえし

二 耶蘇よ(世)にうまれ　またよにかちて
あげられしとき　たゝへひゞきぬ

三 かみあめつちの　けがれをのぞき
あらためまさば　たゝへあるべし

四 このときをまち　よにあるたみも
たゝへのうたを　たえせずさゝぐ

五 こゝろとこゑを　あはせうたひて
みくにのたゝへ　いやならはばや

192　第百九十二　S. Peter (Reinagle). C.M.

我常(つね)に主を祝(いは)ひまつらん

一　われつねにかみを　いはひまつり
　　そのたゝへごとは　くちにたえじ

二　へりくだるものよ　われとゝもに
　　わがかみをあがめ　みなをうたへ

三　なやみのわなより　さけびしとき
　　みゝをかたぶけて　すくひましき

四　かみのみつかひは　たむろをなし
　　よりたのむものを　まもりたすく

五　たよれるやからの　さちをしらば
　　かみのみめぐみを　あぢはへかし

193 第百九十三　Buckland.　7s.

欣喜を抱きてヱホバに事へ唄ひつゝその前に來れ

一　かみのみたみよ　みくらをかこみ
こゝろをあはせ　うたひよろこべ

二　かみをばしらぬ　よはうたはずも
かみのよつぎは　ほめたゝふべし

三　このよにあるも　あまつみちゝは
つねにまもりて　つひにまねかむ

四　みくにゝいたり　つみをばはなれ
かみにまみえて　たえずたのしむ

五　よにあるうちも　あまつみそのゝ
（果）みをあぢはひて　うたひよろこべ

194　第百九十四　S. Alphege.　76.

我靈魂(たま)よヱホバをほめまつれ

一
わがたましひよ　かみのみな(名)の
いさをとめぐみ　たゝへまつれ

二
やまひをいやし　つみとゝがを
ゆるしたまふを　たゝへまつれ

三
ほろびにいたる　な(汝)がいのちを
さかゑしむるを　たゝへまつれ

四
かてにわかしめ　いつくしみを
かむらしむるを　たゝへまつれ

五
つかるゝときに　わしのごとく
わかやがせるを　たゝへまつれ

六
わがたましひよ　かみのめぐみ
つねにわすれず　ほめたゝへよ

第百九十五　Alleluia.　6 of 87.

主に感謝(かんしゃ)し聖名(みな)をはめたゝふる
は善(よ)きかな

一
たゝへのみつぎを　みくらにをさめ
ゆるされいかされ　やはらぎをえて
ハレルヤ〳〵　かみをあがめよ

二
みちかひをまもり　いかりにおそく
おやたちをめぐみ　こらをもいはふ
ハレルヤ〳〵　わまつみをさぞ

三
かよわきみをしり　わはれみつよめ
てをたづさへつゝ　おたらをふせぐ
ハレルヤ〳〵　わまつみちふぞ

四
みまへにつどへる　みつかひたゝへ
もろくにのはつは　すくひのよつぎ
ハレルヤ〳〵　ともにうたへよ

196 第百九十六 Durham. C. M.

神は其神と稱(とな)ふることを恥(はぢ)とせざりき

一 かみのこたちよ よのうきたびを
なしつゝ耶蘇の いさをゝうたへ

二 さちをねたりし とはつおやらの
あとにしたがひ みくにへゆけよ

三 みひかりのこよ きみのそなへし
よゝのさかねの みやこをあふげ

四 すでにみくにの さかひをふめば
おそれずすゝめ をさのしめ玄ぞ

五 あらゆるものを よろこびすてゝ
みちびくきみに たのみしたがへ

197 第百九十七 Oriel. 6 of 87.

神は諸(もろく)の名に超(ま)さる名を之に

予(あた)へ給へり

一
かみのさだめにて　よゝかくれしも
やゝわらはれたる　すくひのみなに
たふときさかえ　いつもわれかし

二
よのかなしきたに　たどるたびゞと
みなをおもひつゝ　くるしみをたへ
みなにつよめられ　よろこびうたふ

三
みなをのぶるこゑ　ことのねにまし
みなによるいのり　なぐさめをうく
みなをさとりえば　よろこびぞみつ

四
みなをたのむもの　わたをばふせぎ
わしなへみゝしひ　みないやされぬ
もろびとしるべし　このなは耶蘇ぞ

五
われらのこゝろに　みなをばしるし
そのいさをにより　みくにゝいたり
みつかひとゝもに　うたはせたまへ

198

第百九十八　Vesper Hymn.　8 of 87.

ハレルヤ夫(それ)主たる全能(ぜんのう)の神は王なり

一 みよ(世)をゑろしめす　おはきみ耶蘇を
はめたゝへまつる　そのこゑぐは
うみにもやまにも　ひゞきわたりぬ
ハレルヤハレルヤ　ハレルヤアーメン

二 さかゑあるきみよ　みよとこしへに
ゑろしめしたまへ　きみがめぐみの
ひかりはあまねく　かゞやきわたる
ハレルヤハレルヤ　ハレルヤアーメン

三 わがそくひぬしの　みこゑをばきゝ
わめつちうごきて　かはるときにも
こがねのこと(琴)もて　いさみうたはむ
ハレルヤハレルヤ　ハレルヤアーメン

199　第百九十九　S. Ann.　C.M.

彼が衣と股に錄せる名あり曰く
諸王の王諸主の主

一　ひともみつかひも　耶蘇のみなの
ちからをはめつゝ　をさとをがめ

二　みまへによばゝる　わかしびとよ
エサイのみするを　をさとをがめ

三　ヤコブのやからよ　めぐみをもて
わがなひしきみを　をさとをがめ

四　みぬしのなやみと　いつくしみを
ゑたふつみびとよ　をさとをがめ

五　よろづのやからよ　みまへにふし
みいづをかしこみ　をさとをがめ

六　とこしへのうたに　こゑをわはせ
ちよろづのものゝ　をさとをがめ

200

第二百　Anon in B♭.　6 of 75.

凡ての善き賜は皆上より降るなり

あまみつかひも　よのひとも
めぐみのもとの　ちゝとこと
みたまのかみを　たゝふべし

201

第二百一　Old Hundred.　L.M.

主を讃まつれ其すべての恩恵を忘る、なかれ

ひともみつかひも　めぐみのもとなる
ちゝみこみたまの　かみをばほむべし

來世

202

第二百二　S. George.　8 of 7.

此白き衣を着たる者は誰か且何處より來りしや

一 しろきころもを　そのみにまとひ
かゞやくかみの　みくらのまへに
たちゐならびて　かみにつかふる
そのひと〳〵は　いかなるものぞ

二 そのひと〳〵は　なやみをへつゝ
よきこひつじの　いつくしみある
そのちしはにて　おのがころもを
あらひきよめて　しろくせしもの

三 いまはみまへに　よるひるありて
よろこびかみに　つかへまつれば
たふときかみも　そのうちにまし
あつきめぐみを　たれたまふべし

四 かみはなみだを　ぬぐはせたまひ
耶蘇よきかてと　いけるいづみを
あたへたまへば　そのひと〳〵は
よろこびみちて　うゑじかわかじ

203　第二百三　S. Agnes.　CM.

復死(またし)あらぞ哀(かなし)み哭(なげ)き痛(いた)み有(ある)ことなし

一　よはひのつきざる　きよきたみの
よろこびたのしむ　みくにぞある

二　とこしへのはるに　ちらぬはなの
かはれるみそのぞ　よるもあらぞ

三　みくにをへだつる　し(死)のかは(川)あり
よのひとたゆたふ　そのきしべに

四　まよひのくもきり　はれわたりて
みさかはみえなば　おそれあらじ

五　かみよみひかりに　よもをてらし
おそれぞみくにを　のぞましめよ

204　第二百四　Joyfully.　8 of 10.

爾曹(なんぢら)の父(ちゝ)は喜(よろこ)びて國(くに)をなんぢら

に予(あた)へ給はん

一 耶蘇われをあはれみて
そのきよきみくにへと
まねくをばよろこびて
とくゆかばわがいきの
かよひぢのたゆるとき
かみのまへにいたりて
みは耶蘇ともろともに
やすむこそたのしけれ

二 われらよをふはるとも
耶蘇によりおそれなし
耶蘇はか(墓)をいでませば
われもまたはかをいで
うきなやみつゆもなく
よろこびはみちたらひ
たのしみとかゞやきの
つきぬよにいたるべし

205 第二百五　Hollingside. 8 of 7.

我爾曹(あんぢら)の爲(ため)に所(ところ)を備(そな)へに往(ゆ)く

一
われらのくには
いともたのしき
耶蘇わがために
すまひをそなへ
このよにあらで
あまつみくにぞ
みちゝのまへに
まちたまふなり

二
なみかぜあらさ
わたれるときも
耶蘇にたよりて
めをさましみば
このよのなだを
さらにおそれず
ねむりにつくも
しづけきみなと

三
そのうるわしき
かゞやくきみの
つみもなやみも
みちゝとゝもに
みなとへいらば
みかはをあふぎ
し(死)もみなつきて
よゝたのしまむ

神彼等の爲に京城を備へ給ひし也

一
われはうきよを　わたるたびゞと
うれひとなやみ　みをかこむとも
いたるところは　ちゝのみくにぞ

二
ときわかぬよに　やどりはあらで
あめかぜあらく　みをばうつとも
やがていたるは　ちゝのみくにぞ

三
すくひのぬしは　まねきたまへば
つかれをわすれ　いそぎゆくべし
やすむところは　ちゝのみくにぞ

207 第二百七 Requiem. 87877.

神かれらの目の涙を悉く拭ひ給ふ

一 なみだのたになる　よにさまよひて
なげきにしづめる　もろびとよきけ
かみはなみだを　ぬぐはせたまふ

二 いつくしめるこや　むつびしつまの
なきあとをしたひ　なくものよきけ
かみはなみだを　ぬぐはせたまふ

三 まづしきになやみ　やまひをうれひ
のぞみをうしなひ　なげくものきけ
かみはなみだを　ぬぐはせたまふ

四 耶蘇きみのみなと　まさみちのため
せめをうくるもの　よろこびてきけ
かみはなみだを　ぬぐはせたまふ

208 第二百八 Lancashire. 7676776.

彼等は更(さら)に愈(まさ)れる所すなはち天に在る所を慕(した)へり

一 わがたましひよ　あめつちみな
やがてきえなば　つばさをはり
まひつゝかみの　ちかひたまひし
つきぬすまひに　いそぎいたれ

二 わがたましひよ　うれひをさり
みすくひぬしは　いまあらはれ
みくにのさちに　みちびきませば
さかえのかむり　のぞみすゝめ

三 わがたましひよ　ながみかみの(汝)
なみだをぬぐひ　みよろこびと
やすくことたる　そなへをなせる
あまつみやこを　たえぞゑたへ

209　第二百九　Clewer.　75.

我儕(われら)もし彼(かれ)と共(とも)に死(し)なば彼(かれ)と共(とも)に生(いく)べし

一　みぬしと、もに　もししなば
みぬしとゝもに　いきぬべし

二　なやみをたへて　しのびなば
みぬしとゝもに　をさむべし

三　きみをしらずと　もしいはゞ
きみもしらぞと　のたまはむ

四　まことをはなれ　うたがへど
きみのまことは　かはりなし

五　いとたのもしき　かみなれば
みちかひいかで　たがふべき

210　第二百十　Magdalene.　8 of 75.

人もし我に由(よ)らざれば父の所に

ゆくこと能(あた)はず

一
サタナのさそひ　かなしみや
つみくるしみも　みをはなれ
たのしくゝらす　みすまひの
みかどゝみちは　耶蘇のみぞ

二
ひたひに耶蘇の　おはみな(名)を
ゑるさぬものは　かゞやける
たまやこがねの　つくりなる
そのみすまひに　いたられじ

三
そのみすまひに　すむたみは
みちゝとみ(子)てを　をがみつゝ
こゝろみたまに　みたされて
たゝへのうたを　さゝぐべし

四
みちゝよたみを　ゐらぶとき
はのはのいけに　なげいれず
われをみまへに　すまはすを
耶蘇にたよりて　ねがふなり

211 第二百十一　S. Alphege.　76.

見る所の者は暫時にして見ざる
所の者は永遠ければなり

一　みじかきなやみ　このよにうけ
　　よゝのさかえの　いのちをまつ

二　はかなきよひと　つかれにかへ
　　いてひをうくる　そのうれしさ

三　いまいくさわり　またきさちの
　　かむりをうるは　のちのよなり

四　いまめをさまし　つよきわれの
　　おそひをふせぎ　たゝかふべし

五　かのよにいたり　みぬしをゑり
　　みかほをゝがみ　たのしむべし

六　みたみのゝぞむ　あまつくにへ
　　きみよあはれみ　みちびきませ

第二百十二　Bread of Heaven.6 of 7.

聖城(きよきまち)なる新(あた)らしきエルサレム備(そな)へ整(とゝの)ひ神の所(ところ)を出(い)で天より降(くだ)るを見(み)る

一
このよのなやみ　わたりつくして
わがいつくしむ　かみのみやこの
そのよろこびを　みるはいつぞや

二
かなしみうれひ　つかれもあらぬ
いともたのしき　みそのゝうちに
つどへるともは　きよきやからぞ

三
つねにみかみの　かゞやきあれば
みやこのたみは　ひ(日)のでとてりて
やみぢとくもの　おほふことなし

四
わがいつくしむ　あまつみやこに
つひにいたりて　みくらにいます
かみのみかほを　いつかをがまむ

HEAVEN.

REDEMPTION.

SEPTUAGESIMA (CREATION)

LENT.

HOLY WEEK.

Advent.

Christmas.

New Year.

Epiphany. (Missions)

INDEX.

For the direction of those who may use this Hymnal, it may be well to say that though the hymns are arranged according to the Seasons of the Church, by far the greater part of them may be used at any time; For instance missionary hymns will be found in the season of Epiphany, hymns on Creation in the pre-Lental season, hymns on self-consecration under the head of Confirmation, and so on

All communications on the subject of this book should be addressed to the undersigned.

H. J. Foss
The Firs
Shi no miya
Kobe.

June 1891.

The Hymns borrowed from the Shinsen Sambika are as follows:—Nos 4, 9, 11, 18, 20, 21, 22, 24, 28, 36, 49, 57, 61, 63, 89, 92, 93, 99, 122, 155, 160, 164, 171, 178, 179, 183, 186, 198, 199.

PREFACE.

This little hymnal is offered to the Church of Japan for use in public and private worship, with an earnest hope that in spite of its many imperfections it may be useful in some small way in advancing the spirit of praise and thanksgiving.

Thanks are due in the first instance to the Rev. T. S. Tyng, most of the hymns of whose Hymnbook have been reprinted here with or without revision: also to the Editing Committee of the Shinsen-sambika not only for their emendations to the hymns which they adopted from Mr Tyng's book, or some other common source, but also for permission to use the hymns noted below which have been borrowed with or without alteration from their book: also in a very large degree to Messrs Hayashi Nagahiko, Murayama Wasuke. Nakamura Yoshiaki, and other native scholars, whose help has been invaluable; and to Archdeacon Warren, who in the midst of his manifold engagements spent much time and thought in a thorough examination of the whole book, and who has made many important suggestions and corrections; and finally to Mrs Pownall, who has most kindly undertaken the labours of preparing the musical edition, and has expended much care and thought in the selection from various sources, and adaptation for use in Japan, of suitable tunes for all the hymns.

"Such as it is, 'tis here:
Forgive the best!
Accept the rest!
Thy pardon and acceptance
Maketh blest."

SEIKŌKWAI SAMBIKA

Church Hymnal

for the use of the

Nippon Seikōkwai

1891

明治廿四年七月十八日印刷
（定價金拾錢）
明治廿四年七月廿二日出版

著者兼
發行人　大阪府平民
赤川孫兵衛
大阪市東區北濵二丁目
三十四番屋敷

印刷所　龍雲舍
大阪市東區北濵二丁目
三十四番屋敷

正誤

頁數	誤	正
見出し二丁三行目	はるのわきけ トアルハ	はるのわさけ
四十七丁	Redempion. トアルハ	Redemption.
五十一丁	第五十 トアルハ	第五十二
五十三丁	Innscents. トアルハ	Innocents.
七十五丁	Anon in Eb. トアルハ	Anon in B♭.
七十六丁	Lit rany in C. トアルハ	Litany in C.
八十丁	Lendisfarne. トアルハ	Lindisfarne.
百二十八丁	Hreaven トアルハ	Heaven.
百九十七丁	165 第百九十五 トアルハ	195 第百九十五